日野川水系自然再生計画(案) 【参考資料】

令和7年9月

中国地方整備局 日野川河川事務所



<u>目 次</u>

参考資料1 日野川水系の生物相 ・・・P1~P6

参考資料2 重要種の確認状況 ・・・P7~P12

参考資料3 河川環境管理シート ・・・P13~P23

参考資料4 測量縦断の経年変化 ・・・P24~P25

参考資料5 魚類の遡上環境の劣化への対応状況 (詳細)

· · · P26

参考資料6 植生の経年変化(車尾堰〜日野川堰)

· · · P27

参考資料7 河床が泥・砂泥で緩水環境を好む多様な動植物が 生息する環境の創出の整備候補箇所の選定

· · · P28

(1)哺乳類、爬虫類、両生類

- ・河川水辺の国勢調査において、18種の哺乳類、12種の爬虫類、8種の両生類を確認。
- ・そのうち、哺乳類の1種、2種の爬虫類、3種の両生類が重要種に該当。

哺乳	類														
											重要種			F	卜来 種
No.	目名	科名	種名	H5	H10	H15	H25 · H26	R5	天然 記念物	種の 保存法	県希少	環境省 RL	鳥取県 RDB	外来 生物法	生態系被害防止リスト
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ	•	•	•	•	•							
2		モグラ	ヒミズ			•									
3			コウベモグラ	•	•	•	•	•							
-			モグラ属				•	•							
4	コウモリ	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ					•					NT		
-			ヒナコウモリ科			•	•	•							
_		-	コウモリ目	•	•										
5	ウサギ	ウサギ	ノウサギ			•									
6	ネズミ	ネズミ	ハタネズミ	•	•	•	•								
7			アカネズミ	•	•	•	•	•							
8			ヒメネズミ	•			•								
9			カヤネズミ	•	•	•	•	•							
10			ハツカネズミ				•								重点
-			ネズミ科					•							
11		ヌートリア	ヌートリア	•	•	•	•	•						特定	緊急
12	ネコ	イヌ	タヌキ	•	•	•	•	•							
13			キツネ	•	•	•	•	•							
14		イタチ	テン(ホンドテン)				•	•							
15			シベリアイタチ				•	•							重点
-			イタチ属	•	•	•	•	•							
16			アナグマ					•							
_			イタチ科					•							
17			イノシシ					•							
18			ニホンジカ					•							
計	5目	8科	18種	11種	10種	12種	13種	13種	-	-	-	-	1種	1種	3種

爬虫	類														
											重要種			F	卜来 種
No.	目名	科名	種名	H5	H10	H15	H25 • H26	R5	天然 記念物	種の 保存法	県希少	環境省 RL	鳥取県 RDB	外来 生物法	生態系被害 防止リスト
1	カメ	イシガメ	クサガメ		•										
2		ヌマガメ	ミシシッピアカミミガメ					•						条件付 特定外来	緊急
3		スッポン	ニホンスッポン			•	•	•				DD	DD		
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ				•	•							
5		トカゲ	ニホントカゲ		•	•	•								
6		カナヘビ	ニホンカナヘビ	•	•	•	•	•							
7		ナミヘビ	シマヘビ	•	•	•	•	•							
8			アオダイショウ		•	•	•	•							
9			シロマダラ			•		•					DD		
10			ヒバカリ			•	•								
11			ヤマカガシ	•	•	•	•								
12		クサリヘビ	ニホンマムシ	•	•		•	•							
計	2目	8科	12種	4種	7種	8種	9種	8種	-	-	-	1種	2種	1種	1種

両生	類														
											重要種			<i>y</i>	卜来種
No.	目名	科名	種名	H5	H10	H15	H25• H26	R5	天然 記念物	種の 保存法	県希少	環境省 RL	鳥取県 RDB	外来 生物法	生態系被害防止リスト
1	有尾	イモリ	アカハライモリ		•	•	•					NT	OT		
2	無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	•	•	•	•	•							
3		アカガエル	トノサマガエル	•	•	•	•	•				NT			
4			ウシガエル			•	•	•						特定	重点
5			ツチガエル	•	•	•	•	•							
6		ヌマガエル	ヌマガエル		•	•	•	•							
7		アオガエル	シュレーゲルアオガエル			•	•								
8			カジカガエル	•	•	•	•	•					OT		
計	2目	5科	8種	4種	6種	8種	9種	6種	-	-	-	2種	3種	1種	1種

注1) 分類体系

原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー(2023, 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)」に従った。

注2) 重要種の選定基準

天然記念物:「文化財保護法」(1950, 法律第214号)

種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992, 法律第75号)の国内希少野生動植物

県希少:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(2001, 条例第51号) 環境省RL:「環境省レッドリスト2020の公表について」(環境省, 2020) NT: 準絶滅危惧、DD:情報不足 鳥取県RDB:レッドデータブックとっとり第3版2022(鳥取県, 令和5年)

NT: 準絶滅危惧、DD:情報不足、OT: その他の重要種

注3) 外来種の選定基準

外来生物法:「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」(2010,環境省)

特定外来:特定外来生物

条件付特定外来:条件付特定外来生物

生態系被害防止リスト:「生態系被害防止外来種リスト」(2015,環境省)

緊急:緊急対策外来種 重点:重点対策外来種

注4) ■:重要種、 ■:外来種を示す。

(2)鳥類

- ・河川水辺の国勢調査において、130種の鳥類を確認。
- ・そのうち、38種の鳥類が重要種に該当。

来種
主態系被書
防止リスト
その他

Max	外来種	Ą			重要種					個体数				
68 力をよ	小来 生態系被	外来						R6	H26		H12	H7	種名	No.
67) ごの井が	物法 防止リス	生物法	KDR	KL		休仔法	記念物		•	•	•	•	カモメ	66
58			NT							Ú				
10 コアジナシ														
73 アンテンテン			00.51		25 ds									
72 月からアジサシ			CR+EN	VU	布少			•	•	•	•			
73 計学											•	_		
75 上								•	•	•	•	•		
76 ハイロチュウと			NT	NT						•	•		ハチクマ	74
77			00.51						•	•	•	•		
78 オオタカ				NT				•				•		
79 スリ								_	•	_		•		
81 アオバスク 82 国主ミスク 83 カアセミ 84 ヤマセミ 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9								•		•				
82 コミズク														
83 カフセミ								•						
84 ヤマセミ			CR+EN											
85 プッポウソウ			VII							-				
86 コゲラ 87 アカゲラ 88 チョウケンボウ 99 モズ 91 ミヤマガラス 92 ハシボソガラス 93 ハシブルガラス 94 ヤマガラ 95 シジュウカラ 96 ヒバリ 97 ツバメ 98 コシアカツバメ 99 オクツバメ 100 ヒョドリ 101 ウグイス 102 エナガ 105 コョンキリ 105 ロョンキリ 105 ロョンキリ 105 ロョンキリ 107 ムクドリ 108 コムクドリ 109 カアガラス 101 シロハラ 111 ツグミ 112 ジョウビタキ 113 バグキ 111 オイショドリ 115 キビタキ 113 バグキ 111 オイショドリ 115 キビタキ 111 バクミドリ 115 キビタキ 111 バクミドリ 115 キビタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハクセキレイ 120 セグロセキレイ 120 セグロセキレイ 121 ビンズイ 121 エグアセキレイ 122 タヒバリ 123 オジュリ 124 カワラヒワ 125 ベニマシコ 126 イカル 127 オオジロ 127 オオジロ 128 カシラダカ 129 カアオジュ				EN	希少					Ť	•			
88								•	•	•	•	•	コゲラ	86
39 ハヤブサ									•					
90 年ズ			\/I.I	\//		图由								
91 ミヤマガラス			VU	VU		띄시								
92 ハンボッガラス									_	_			ミヤマガラス	91
94 ヤマガラ 95 シジュウカラ 96 ヒバリ 97 ツバメ 98 コシアカッパメ 99 イワッパメ 100 ヒョドリ 101 ウグイス 102 エナガ 103 ジロ 104 オオヨシキリ 105 コヨシキリ 106 セッカ 107 ムクドリ 109 カワガラス 110 シロハラ 111 ツグミ 111 ジョウビタキ 113 バタキ 113 バタキ 114 インヒョドリ 115 七ピタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハラセキレイ 119 ハラセキレイ 110 セグロセキレイ 111 パラモワ 112 ジョウエキレイ 112 ピクロセキレイ 113 オアナリ 112 グロセキレイ 113 オアナリ 114 グラセラ 115 インスイ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハラセキレイ 119 ハラセキレイ 110 ログロセキレイ 111 ピンズイ 111 ログラセラ 112 グロセキレイ 112 グロウェキレイ 113 オア・リ 114 オア・レー 115 インス・レー 115 インス・レー 116 オオルリ 117 スズメ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハラセキレイ 119 ハラセキレイ 110 ログロセキレイ 111 ログロセキレイ 111 ログラセラ 112 グロウェキレイ 112 ログロセキレイ 113 オア・リ 114 オア・レー 115 インス・レー 115 インス・レー 116 オオルリ 117 スズメ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハラセキレイ 119 ハラセキレイ 110 ログロセキレイ 110 ログロセキレイ 111 ログラ・レー 112 ログロセキレイ 113 オア・リ 114 オア・ファー 115 インス・レー 115 インス・レー 116 オオルリ 117 スズメ 117 オブ・ロ 118 オブ・ファー 119 ハラセキレイ 119 ハラセキレイ 110 ログロセキレイ 111 ログラ・レー 112 ログラ・レー 113 オブ・ファー 114 オア・ファー 115 インス・レー 117 ログラ・ファー 118 オブ・ファー 119 ハラセキレイ 119 ハラセキレイ 119 ハラ・ファー									•	•				
95 シジュウカラ									•			•		
96 ヒバリ	-													
97 リンバメ	-											•		
98 コンアカソバメ														
100 上当ドリ			VU					•	•	•	•	•	コシアカツバメ	98
101 ウグイス								•	_	•	_	•		
102 エナガ	-							•	_		•	•		
103 メジロ	-+											_		
104 オオヨシキリ														
106 世のカ														
107 上ケドリ 108 コムケドリ 109 カフガラス 110 シロハラ 1111 ツヴs 1112 ジョウビタキ 113 バグタキ 114 イヤミョドリ 115 キビタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハクセキレイ 120 セグロセキレイ 121 ピンズイ 122 ダエ・クリ 123 オアリ 123 オアリ 124 カワラヒワ 125 ベニマシコ 126 イカル 127 ホオジロ 128 カシラダカ 129 アオジ 129 アオジ 129 アオジ 120 サブカジウカ 129 アオジ 120 サブカジウカ 129 アオジ 120 サブカジカ 129 アオジ 120 サブオジコ 120 サブカジカ 121 オンジカ 122 オンラグカ 125 ベニマシカ 127 ホオジロ 128 カシラダカ 129 アオジ 120 オンシーグ 120 オンゴーグ 120 オンゴーグ 120 オンゴーグ 121 オンジカ 122 オンジカ 122 オンジカ 123 オンゴーグ 125 ベニマシカ 127 オンジカ 129 アオジ 120 オンゴーグ 120 オンブーグ 120 オンブーグ 120 オンブーグ 120 オンブーグ 120 オンブーグ 120 オンプーグ								_						
108 コムクドリ 109 カウガラス 110 シロハラ 111 ツグs 111 ツグs 112 ジョウピタキ 113 メビタキ 114 インヒョドリ 115 キビタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハクセキレイ 119 ハクセキレイ 119 レグロセキレイ 112 ピンズイ 112 ピンズイ 112 ピンズイ 112 ピンズイ 113 オアリ 113 オアリ 114 カフラヒワ 115 イスマシコ 115 イスマシコ 116 イカル 117 スズメ 118 キャン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			NT											
109 カワガラス	_							•	•		•	•		
110 シロハラ								•	•			•		
112 ジョウビタキ 113 ノビタキ 114 イソヒヨドリ 115 キビタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 オセキレイ 119 ハクセキレイ 120 セグロセキレイ 121 ピンズイ 121 ピンズイ 121 オンテアリ 123 オトリ 125 ベニマシコ 126 イカル 127 ホオジロ 128 かシラダカ 129 アオジ 120 サブオジュリン								•	•	•	•			
113 /ビタキ 114 イソヒヨドリ 115 キビタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハクセキレイ 119 ハクセキレイ 120 セグロセキレイ 121 ピンズイ 121 ピンズイ 121 ピンズイ 122 タヒバリ 123 アトリ 124 カフラヒワ 125 ベニマシコ 126 ベカル 127 ホオジロ 128 カシラダカ 129 アオジ 129 アオジ 129 アオジ 120 サフオジュリン												•		
114 インヒヨドリ			-					•	•			•		
115 主ビタキ 116 オオルリ 117 スズメ 118 キセキレイ 119 ハクセキレイ 120 セグロセキレイ 121 ピンズイ 121 ピンズイ 121 ピンズイ 122 タエバリ 123 オトリ 125 ベニマシコ 126 ベカル 127 ホオジロ 128 カシラダカ 129 アオジ 129 アオジ 120 アオジュリン	-													
116 オオルリ								_		_	•			
118 半セキレイ											•			
119 ハクセキレイ ● ● ● ● ● ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■														
120 セグロセキレイ														
121 ピンズイ						-	-						ハクセキレイ	119
122 タンパリ			NT								_	•		
123 アリ			- 1					•	•	•		•		
125 ペニマシコ								•	Ď		•		アトリ	123
126 dカル									_	•	_	•	カワラヒワ	124
127 ホオジロ	-+-					<u> </u>	!	_	_		_			
128 カシラダカ			1			!	 							
129 アオジ						1	1				_			
130 オオジュリン ● ● ● ● ●						l	l				•			
								•	•		•	•	オオジュリン	130
	0種 1種	0種	33種	17種	2種	1種	1種	95種	88種	91種	92種	92種		合計

注1) 分類体系

分類群は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (令和6年)」に従った。

注2) 重要種の選定基準

天然記念物:

「文化財保護法」(1950, 法律第214号)及び条例 により指定された種

国天:国指定の天然記念物

種の保存法:

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992, 法律第75号)の国内希少野生動植物

国内:国内希少野生動植物種

県希少:

「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」 (2001, 条例第51号)

環境省RL:

「環境省レッドリスト2020の公表について」(環境 省, 令和2年3月27日)

EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

鳥取県RDB:

レッドデータブックとっとり第3版2022(鳥取県, 令和5年)

CR+EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧

注3) 外来種の選定基準

****来牛物法:

「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止 に関する法律」(2010,環境省)

生態系被害防止リスト:

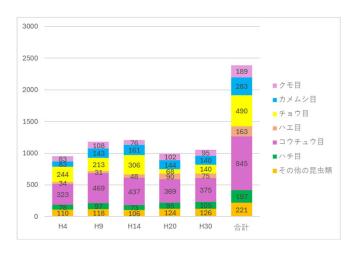
「生態系被害防止外来種リスト」(2015,環境省) その他:その他の総合対策外来種

注4) ■:重要種、 ■:外来種を示す。

(3) 陸上昆虫類

- ・河川水辺の国勢調査において、2388種の陸上昆虫類を確認。
- ・そのうち、60種の陸上昆虫類が重要種に該当。

確認種												
目名	Н	4	H	19	H	14	H2	20	H:	30	合	計
===	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
クモ目	18	83	21	108	15	76	22	102	18	95	27	189
カゲロウ目	7	12	8	12	6	7	6	6	6	9	9	21
トンボ目	7	17	9	30	8	26	8	25	8	37	9	49
ゴキブリ目	1	2	1	1	1	2	2	5	2	3	2	5
カマキリ目	1	3	1	1	1	4	1	5	1	2	1	5
ハサミムシ目	1	1	3	6	3	4	2	4	2	4	4	8
カワゲラ目	3	5	3	4	2	3	2	2	1	2	3	8
バッタ目	12	38	11	37	12	49	14	51	12	50	16	69
ナナフシ目	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1
カメムシ目	24	83	35	143	36	161	34	144	36	140	44	283
ヘビトンボ目	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
アミメカゲロウ目	0	0	2	2	0	0	2	2	1	1	4	5
シリアゲムシ目	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2
トビケラ目	13	30	11	23	6	8	11	22	9	17	16	47
チョウ目	19	244	17	213	25	306	12	68	17	140	26	490
ハエ目	10	34	12	31	16	48	17	90	13	75	18	163
コウチュウ目	41	323	57	469	52	437	48	369	44	375	68	845
ハチ目	16	78	21	97	14	73	19	95	20	105	23	197
合計	175	955	214	1179	200	1207	202	992	191	1056	274	2388



重要	里		1								手亦ほ		
No.	目名	科名	和名	Н4	Н9	H14	H20	H30	天然	種の	重要種	環境省	鳥取県
NO.		4410	71171	114	117	1114	1120	1130	記念物	保存法	県希少	RL	RDB
1	トンボ目	カワトンボ科	アオハダトンボ	•	•	•	•	•	DOZENIO	DNIJ /AA		NT	NT
2			ニホンカワトンボ		•	•		•					0T
3			アサヒナカワトンボ	•									0T
4		サナエトンボ科	キイロサナエ					•				NT	NT
5			ホンサナエ				•						NT
6		トンボ科	アキアカネ	•	•		•	•					NT
	カマキリ目	カマキリ科	ウスバカマキリ	•		•	•					DD	NT
	バッタ目	マツムシ科	カヤコオロギ	<u> </u>		•					希少		VU
9		バッタ科	ショウリョウバッタモドキ	<u> </u>		•		•					NT
10		イナゴ科	ヤマトフキバッタ			•	•	_					OT.
11	カメムシ目	コオイムシ科	コオイムシ	1			•	•				NT	NT
12	1		オオコオイムシ	+_	_	_		•			35 (I)	1///	NT
13	1	カノコウエ科	タガメ	•	•	•				国内	希少	VU	VU
14	7 - 40	タイコウチ科	タイコウチ		•		•	•				NT	NT NT
	チョウ目	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	_	_	•						NI	NT NT
16 17	ł	シジミチョウ科	オオチャバネセセリ	•	-	•	•	•		-	希少	EN	CR+EN
18	ł	アゲハチョウ科	シルビアシジミ ウスバシロチョウ	1	•	•	•	•			サツ	EN	NT NT
18	1	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	 	•	-	•	-				EN	NT
20	ł	ヒトリガ科	ヤネホソバ	•			•			l	1	NT	IN I
21	1	ヤガ科	カギモンハナオイアツバ	-				•				NT	
22	1	1: /3 1-4	キシタアツバ			•		-	-			NT	
23			ナカスジキヨトウ		•	-	_	_				- NI	DD
24	コウチュウ目	オサムシ科	セアカオサムシ	_		_						NT	NT
25		774714	ニセトックリゴミムシ	•	•	•						IVI	DD
26			オオトックリゴミムシ	_	•	_		•				NT	DD
27			イグチケブカゴミムシ					_				NT	DD
28	l	ハンミョウ科	ナミハンミョウ	1	_	•		•				- NI	NT
29		112 - 2 2 2 14	エリザハンミョウ		•	•		•					NT
30		ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ		-	_	•	ě			希少	NT	VU
31		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	コガタノゲンゴロウ		_		ě	ě			希少	VU	VÜ
32	i		シマゲンゴロウ	•	•						希少	NT	VU
33			ケシゲンゴロウ	ě	•						.,,,,	NT	DD
34	i		マルチビゲンゴロウ				•					NT	- 55
35	1	ミズスマシ科	コオナガミズスマシ		•		_					VU	
36	1	コガシラミズムシ科	クビボソコガシラミズムシ					•				DD	
37		ガムシ科	ヤマトゴマフガムシ		•	•		•					NT
38		* *	ゴマフガムシ	•	•						希少		٧U
39			コガムシ	•	•	•	•	•				DD	
40			ガムシ	•	•			•				NT	NT
41			シジミガムシ	•	•	•						EN	
42			ヒメガムシ	•	•	•	•	•					DD
43		シデムシ科	ヤマトモンシデムシ	•	•							NT	
44		ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ		•			•				VU	NT
45	1		ケスジドロムシ	1				•				VU	NT
46	1	ジョウカイボン科	ジョウカイボン西日本亜種	•	•	•	•	•					0T
47	l	ホタル科	ヘイケボタル	!		•		•					NT
48		カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	•								EN	DD
49	ハチ目	セイボウ科	オオセイボウ	1	•		•	-		ļ	ļ	DD	-
50	l	アリ科	トゲアリ	├			_	•		<u> </u>	<u> </u>	VU	
51	ł	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	+_		_	•	•		ļ	ļ	DD	DD
52	ł	カエ バイ 科	モンスズメバチ	•		•		•		ļ	ļ	DD	
53	l	クモバチ科	アケボノクモバチ	+	_		•	-		ļ	ļ	DD	DD
54	ł	15日 パイエ 154か	フタモンクモバチ	1	•					-	25./h	NT	
55	1	ドロバチモドキ科	キアシハナダカバチモドキ	+			•	•		<u> </u>	希少	VU	VU
56	ł	ミツバチ科	クロマルハナバチ	1				•		-	1	NT	NT
57	ł	ハキリバチ科	キヌゲハキリバチ	+		•	•	•		<u> </u>	<u> </u>	P.D.	NT
58	1	İ	クズハキリバチ	+	•				<u> </u>	 	 	DD	
59 60	1	1	キバラハキリバチ マイマイツツハナバチ	•		•	-	•				NT DD	DD NT
	7目	2251		_	•	24種	つつまき	32種	0種	1種	8種		
計	/日	33科	60種	24種	31種	24裡	22種	34種	U裡	種	δ裡	39種	45種

注1) 分類体系

分類群は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和5年度版-」に従った。

注2) 重要種の選定基準

天然記念物:「文化財保護法」(1950, 法律第214号)及び条例により指定された天然記念物

種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992, 法律第75号)の国内希少野生動植物

国内:国内希少野生動植物種

県希少:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」の指定種(2001,条例第51号)

環境省RL:「環境省レッドリスト2020の公表について」(環境省,2020) EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足 鳥取県RDB:レッドデータブックとっとり第3版2022(鳥取県,令和5年)

CR+EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、OT:その他の重要種

注3) 外来種の選定基準

外来生物法:「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」(2010, 環境省)の特定 外来生物

生態系被害防止リスト: 「生態系被害防止外来種リスト」 (2015, 環境省) の記載種 ※外来種の選定基準に該当する種は確認されていない。

(4)魚類

- ・河川水辺の国勢調査において、75種の魚類を確認。
- ・そのうち、16種の魚類が重要種に該当。

											重要種			g	· 未種
No.	和名	Н6	H11	H16	H21	H26	R1	R6	天然 記念物	種の 保存法	県希少	環境省 RL	鳥取県 RDB	外来 生物法	生態系被害防止リスト
	スナヤツメ南方種	•	•	•	•	•	•	•			希少	VU	VU		
2	カワヤツメ	•										VU	DD		
3	ニホンウナギ	•	•		•	•	•	•				EN	NT		
	サッパ		•												
5	コノシロ							•							
6	コイ(飼育型)						•	•							
-	コイ(型不明)	•	•	•	•	•									
	コイ(改良品種型)					•									
7	ゲンゴロウブナ				•			•				EN			
8	ギンブナ	•	•	•	•	•	•	•							
	フナ属						•								
9	ヤリタナゴ	•		•	•			•				NT	NT		
	ミナミアカヒレタビラ		•	•	•	•					希少	CR	CR+EN		
	タイリクバラタナゴ		•	•	•	•	•	•							重点
12	オイカワ	•	•	•	•	•	•	•							
13	カワムツ	•	•	•	•	•	•	•							
	タカハヤ		•	•	•	•	•	•							
15	ウグイ	•	•	•	•	•	•	•							
16	モツゴ	•	•	•	•	•	•	•							
17	ムギツク	•	•	•	•	•	•	•							
18	タモロコ			•	•	•	•	•							
19	カマツカ	•	•	•	•	•	•	•							
	ドジョウ	•	•	•	•	•	•	•				NT	DD		
21	ニシシマドジョウ	•	•	•	•	•	•	•							
22	サンインコガタスジシマ ドジョウ	•	•	•	•	•	•	•				EN	NT		
23	ナマズ	•	•	•	•	•	•	•							
	アカザ			•	•	•	•	•			希少	VU	CR+EN		
	ワカサギ						•						NT		
	アユ	•	•	•	•	•	•	•							
	サケ		•	•	•	•	•								
	サクラマス		•				•					NT	NT		
29	サツキマス (アマゴ)		•			•		•				NT			
	ガンテンイシヨウジ														
	ボラ		•	•	•	•	•	•							
	メナダ		•	•	•			•							
	ミナミメダカ	•	•	•	•	•	•				希少	VU	VU	· ·	
	サヨリ		•												
35	マゴチ				•	•	•	•							
-	コチ属						•								
36	オヤニラミ		•	•	•	•	•	•				EN	DD		

											重要種			4	小来種
No.	和名	Н6	H11	H16	H21	H26	R1	R6	天然	種の		環境省	鳥取県	外来	生態系被害
									記念物	保存法	県希少	RL	RDB	生物法	
37	ヒラスズキ							•	20.0.1.3	1711272					172
38	スズキ		•	•	•	•	•	•							
39	ブルーギル							•						特定	緊急
40	オオクチバス							•						特定	緊急
41	ヒイラギ						•	•							
42	クロサギ属							•							
43	クロダイ						•								
44	シロギス			•				•							
45	コトヒキ属							•							
46	シマイサキ				•	•	•	ě							
-	シマイサキ科		•		_	_	_								
47	カマキリ(アユカケ)	•	•		•	•	•	•				VU	VU		
48	カジカ中卵型	Ť	Ť					ě				EN			
49	ドンコ	•	•	•	•	•	•	•							
50	カワアナゴ						•	ě					DD		
51	ミミズハゼ			•	•	•									
52	シロウオ			ě							希少	VU	VU		
53	マハゼ		•	•	•	•	•	•			.,,,,,				
54	アシシロハゼ		ě	ě	ě	ě		ě							
55	アベハゼ						•								
56	シモフリシマハゼ						•								
57	ヌマチチブ	•		•	•	•	ě	•							
58	チチブ				ě										
-	チチブ属						•								
59	ヒナハゼ			•			ě	•							
60	カワヨシノボリ	•	•	ě	•	•		•							
61	シマヨシノボリ	ě	•	ě	ě	ě	•	ě							
62	オオヨシノボリ	•			•	ě		ă					NT		
63	ゴクラクハゼ	•	ě	•	•			•					- 141		
64	トウヨシノボリ類	Ť		ě	_	<u> </u>	Ť	ě							
-	ヨシノボリ属	Ť	Ť	—			Ť	Ť							
65	ウロハゼ							•							
66	ヒメハゼ			•	•	•	ě	ě							
67	スミウキゴリ	1	i i	ě	ě		•				İ	İ			
68	ウキゴリ	•	•	ě	•		•	ě							
69	サツキハゼ	Ť			_	Ť		ě							
70	カムルチー	1													
71	ヒラメ	1						T .							
72	イシガレイ	1						•							
73	マフグ	1	1			 		_ _							
74	コモンフグ	1									1	1			<u> </u>
75	クサフグ	1		1		•									†
合計	75種	27種	42種	45種	46種	44種	52種	61種	_	_	5種	13種	16種	2種	3種
	I J/世	と17里	サム7里	サノ行里	サリケ生	447里	JLT里	UI1里			ノ作生	リカ行星	10位	と作業	ノ作

注1) 分類体系

分類群は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和6年)」に従った。

注2) 重要種の選定根拠

天然記念物:「文化財保護法」(1950, 法律第214号)及び条例により指定された種

種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992, 法律第75号)の国内希少野生動植物

県希少:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(2001, 条例第51号)

環境省RL: 「環境省レッドリスト2020の公表について」 (環境省, 令和2年3月27日)

CR:絕滅危惧IA類、EN:絕滅危惧IB類、VU:絕滅危惧II類、NT:準絕滅危惧

CR+EN: 絶滅危惧I類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足

注3) 外来種の選定根拠

外来生物法:「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」(2010,環境省)

特定:特定外来生物

生態系被害防止リスト:「生態系被害防止外来種リスト」(2015,環境省)

鳥取県RDB:レッドデータブックとっとり第3版2022(鳥取県,令和5年)

緊急:緊急対策外来種、 重点:重点対策外来種

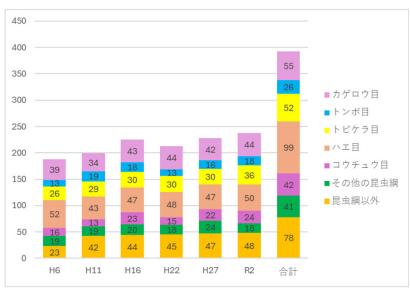
注4) ■:重要種、 ■:外来種を示す。

注5) 日野川水系において、ゲンゴロウブナ、サツキマス(アマゴ)、オヤニラミは国内外来種であるため、重要種として扱わないこととした。

(5) 底生動物

- ・河川水辺の国勢調査において、393種の底生動物を確認
- ・そのうち、23種の底生動物が重要種に該当。

百様状体 三岐陽目	確認種															
神野 神野 神野 神野 神野 神野 神野 神野	郷夕	日夕														
有針			科数	種数	科数	種数										
腹足 アマオブネガイ目 0 0 1 2 2 4 4 6 3 4 4 2 2 3 3 3 4 6 イガイ目 0 1 1 1		三岐腸目	1	1	- 1	1	- 1	1	1	1	- 1	1	1	1	1	1
新生腹足目	有針		0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
別有肺目 3 4 4 5 3 4 2 2 3 3 3 3 3 4 6 6 1	腹足	アマオブネガイ目	0	0	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1
一大村子目		新生腹足目	1	2	- 1	2	2	4		2	2	3	1	2	2	4
イシガイ目		汎有肺目	3	4	4	5	3	4	2	2	3	3	3	3	4	6
マルスダリガイ目 1 1 2 2 2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 5 5 1	二枚貝		0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
ゴカイ サシバゴカイ目 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1			0	0			- 1	1							1	ш
A		マルスダレガイ目	1	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	3	3	5
ストゴカイ目	ゴカイ	サシバゴカイ目	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
ままえ 一方式ミズ目 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1	スピオ目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
オヨギミズ目 0 0 0 0 1 1 1 1 1 1			0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
イトミミズ目 1 2 1 4 1 6 1 7 1 6 2 9 2 14 ツリミズ目 0 0 2 2 1 1 0 0 0 0 1 1 2 2 ヒル	ミミズ	ナガミミズ目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
Pub Pu		オヨギミミズ目	0	0	0	0	- 1	1	1		- 1	1	1	1	1	1
ビル 物蛭目 1 1 1 1 1 2 4 2 3 2 2 1 3 2 5 軟甲 タナイス目 0 0 1 <t></t>			1	2	1	4	1	6	1	7	1	6	2	9	2	14
映無経目		ツリミミズ目	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2
軟甲 タナイス目 0 0 1 1 1 1 0 0 1 1	ヒル		1	1			2		2		2		1			
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		吻無蛭目	1	2	2	3	1	2			1	2	2	2	2	3
フラジムシ目 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	軟甲	タナイス目	0	0	- 1	1	- 1	1			1	1	1	1	1	1
記載 1 1 1 1 1 1 1 1 1				1	_									_		
正式目 5 7 8 14 6 10 8 14 7 12 7 12 9 19 日本 カゲロウ目 11 39 11 34 11 43 11 44 10 42 10 44 11 55 トンボ目 6 13 7 19 7 18 5 13 7 16 7 18 7 26 カワゲラ目 4 7 4 11 5 10 4 9 4 9 5 9 5 16 カメムシ目 6 9 4 5 7 8 5 8 7 12 7 8 10 18 ヘビトンボ目 2 2 2 2 0 0 0 0 1 1 0 0 2 2 アミメカゲロウ目 15 26 15 29 15 30 14 30 14 30 14 36 21 52 チョウ目 1 1 1 1 1 0 0 0 1 2 1 1 1 3 八工目 11 52 8 43 11 47 10 48 11 47 14 50 17 99 コウチュウ目 5 16 6 13 7 23 5 15 7 22 7 24 9 42			2	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2
昆虫 カゲロウ目 11 39 11 34 11 43 11 44 10 42 10 44 11 55		アミ目	0	0	0	0	- 1	1	1	1			1	1	1	1
トンボ目 6 13 7 19 7 18 5 13 7 16 7 18 7 26 カワゲラ目 4 7 4 11 5 10 4 9 4 9 5 9 5 16 7 8 5 8 7 12 7 8 10 18 ルビトンボ目 2			5		8				8	14		12		12	9	
カワゲラ目 4 7 4 11 5 10 4 9 4 9 5 9 5 16 カメムシ目 6 9 4 5 7 8 5 8 7 12 7 8 10 18 ヘビトンボ目 2 2 2 2 0 0 0 0 1 1 0 0 0 2 2 アミメカゲロウ目 0 0 0 0 1 1 1 1 0 0 0 0 0 2 2 トピケラ目 15 26 15 29 15 30 14 30 14 30 14 36 21 52 チョウ目 1 1 1 1 1 1 0 0 1 2 1 1 1 3 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	昆虫		11									42			_	
カメムシ目 6 9 4 5 7 8 5 8 7 12 7 8 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 18 10 10		トンボ目	6	13	7	19	7	18	5	13	7	16	7	18	7	26
人どトンボ目 2 2 2 2 2 0 0 0 0 1 1 0 0 2 2 アミメカゲロウ目 0 0 0 1 1 1 0 0 0 2 2 トピケラ目 15 26 15 29 15 30 14 30 14 30 14 36 21 52 チョウ目 1 1 1 1 1 1 0 0 1 2 1 1 1 3 バエ目 11 52 8 43 11 47 10 48 11 47 14 50 17 99 コウチュウ目 5 16 6 13 7 23 5 15 7 22 7 24 9 42			4	7	4	- 11									5	16
フラスカゲロウ目 0 0 0 0 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 2 2 2			6				7	8	5	8	7	12	7	8	10	18
トピケラ目 15 26 15 29 15 30 14 30 14 30 14 36 21 52 チョウ目 1 1 1 1 1 1 0 0 1 2 1 1 1 1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		ヘビトンボ目	2	2	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2
チョウ目 1 1 1 1 1 1 0 0 1 2 1 1 1 3 八工目 11 52 8 43 11 47 10 48 11 47 14 50 17 99 コウチュウ目 5 16 6 13 7 23 5 15 7 22 7 24 9 42															_	
ハエ目 11 52 8 43 11 47 10 48 11 47 14 50 17 99 コウチュウ目 5 16 6 13 7 23 5 15 7 22 7 24 9 42			15	26	15	29	15	30	14	30	14		14	36	21	52
コウチュウ目 5 16 6 13 7 23 5 15 7 22 7 24 9 42		チョウ目		1	1				,				1		1	_
			11	52	8		11		10		11		14		17	
◆計 70秒 100番 00秒 100番 04秒 225番 05秒 212番 07秒 220番 07秒 220番 120秒 2023															,	
ロョ 100行 100性 00行 137件 223性 33行 213性 97行 228性 97行 238性 130行 337行 337行 228性 97行 238性 130行 337行	合計	78科	188種	88科	199種	94科	225種	85科	213種	97科	228種	97科	238種	130科	393種	



重要種	重															
														重要種		
No.	門名	綱名	目名	科名	種和名	Н6	H11	H16	H22	H27	R2	天然 記念物	種の 保存法	県希少	環境省 RL	鳥取県 RDB
1	軟体動物	腹足	アマオブネガイ	アマオブネガイ	イシマキガイ		•	•	•	•	•					NT
2			新生腹足	タニシ	オオタニシ			•							NT	NT
3			汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ	•	•	•							NT	NT
4				ヒラマキガイ	カワコザラガイ		•	•		•					CR	
5					ヒラマキガイモドキ	•	•								NT	DD
6		二枚貝	マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ			•		•	•				NT	NT
7					マシジミ	•	•								VU	NT
8				マメシジミ	マメシジミ		•							希少		CR+EN
9	節足動物	昆虫	トンボ	カワトンボ	ニホンカワトンボ		•	•		•	•					0T
10					アサヒナカワトンボ		•	•		•	•					0T
- 11				サナエトンボ	キイロサナエ										NT	NT
12					ホンサナエ	•	•	•								NT
13			カメムシ	コオイムシ	コオイムシ					•	•				NT	NT
14					オオコオイムシ					•	•					NT
15				タイコウチ	タイコウチ	•	•	•	•	•	•					NT
16			コウチュウ	ゲンゴロウ	コガタノゲンゴロウ					•				希少	VU	VU
17					ツブゲンゴロウ	•	•									NT
18				ミズスマシ	コオナガミズスマシ	•	•								VU	
19				コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			•							DD	
20				ガムシ	ヒメガムシ	•	•	•		•	•					DD
18 19 20 21 22 23				ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ			•	•	•					VU	NT
22					ケスジドロムシ					•	•				VU	NT
				ホタル	ヘイケボタル			•								NT
合計	2門	3綱	7目	16科	23種	8種	13種	13種	6種	12種	9種	0種	0種	2種	13種	20種

外来	種												
												夕	来種
No.	門名	綱名	目名	科名	種和名	Н6	H11	H16	H22	H27	R2	外来	生態系被害
												生物法	防止リスト
1	軟体動物	腹足	汎有肺	モノアラガイ	ハブタエモノアラガイ				•	•			その他
2	2	二枚貝	マルスダレガイ	シジミ	タイワンシジミ						•		その他
3	節足動物	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	•	•	•	•	•	•	条件付特定	緊急
合計	2門	3綱	3目	3科	3種	1種	1種	1種	2種	2種	2種	1種	3種

注1) 分類体系

分類群は「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版-」に従った。

注2) 重要種の選定根拠

天然記念物:「文化財保護法」(1950,法律第214号)及び条例により指定された種

種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992, 法律第75号)の国内希少野生動植物

県希少:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」 (2001, 条例第51号) 環境省RL:「環境省レッドリスト2020の公表について」 (環境省, 2020) EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足 鳥取県RDB:レッドデータブックとっとり第3版2022 (鳥取県,令和5年)

CR+EN: 絶滅危惧I類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、OT: その他の重要種

注3) 外来種の選定根拠

外来生物法:「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」(2010,環境省)

条件付特定:特定外来生物に指定された生物のうち、飼育などに関する規制の一部が当面の間、適用除外とされている生物

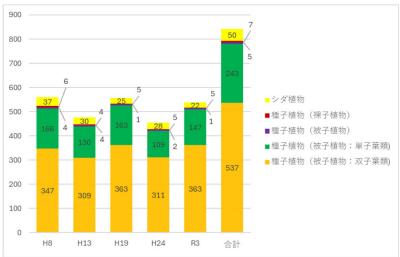
生態系被害防止リスト:「生態系被害防止外来種リスト」(2015,環境省)

緊急:緊急対策外来種、その他:その他の総合対策外来種

(6)植物

- ・河川水辺の国勢調査において、842種の植物を確認。
- ・そのうち、21種の植物が重要種に該当。

確認種														
	分類	百	Н	8	H13		H19		H24		R3		合計	
	カカ	Ħ.	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物			12	37	14	30	12	25	13	28	9	22	15	50
種子植物	裸	子植物	3	4	3	4	1	1	1	2	1	1	3	5
	被	子植物	4	6	2	4	4	5	4	5	4	5	4	7
		単子葉類	15	166	18	130	16	163	14	109	14	147	20	243
		双子葉類	69	347	71	309	77	363	74	311	72	363	85	537
	合語	†	103	560	108	477	110	557	106	455	100	538	127	842



重要種	重											
										重要種		
No.	科名	和名	Н8	H13	H19	H24	R3	天然 記念物	種の 保存法	県希少	環境省 RL	鳥取県 RDB
1	ドクダミ科	ハンゲショウ	•									NT
2	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	•		•	•	•					NT
3	トチカガミ科	ミズオオバコ		•						希少	VU	VU
	ヒルムシロ科	イトモ			•						NT	
5		エビモ	•	•	•	•						NT
6		ホソバミズヒキモ			•							DD
	ヤマノイモ科	ヒメドコロ		•	•							NT
	カヤツリグサ科	オニスゲ	•									NT
9		シオクグ	•							希少		CR+EN
	イネ科	チョウセンガリヤス	•									DD
	ケシ科	ナガミノツルケマン	•	•	•		•				NT	
12	マンサク科	アテツマンサク			•						NT	OT.
		ホザキノフサモ	•	•	•	•	•					DD
	マメ科	イヌハギ	•	•	•	•	•			希少	VU	VU
15	クワ科	ケグワ			•							NT
	バラ科	シャリンバイ			•	•	•			希少		VU
17	カバノキ科	カワラハンノキ	•	•	•	•						0T
18	コミカンソウ科	ヒトツバハギ	•							希少		VU
	ヤナギ科	サイコクキツネヤナギ		•	•							DD
20	ミカン科	フユザンショウ		•								NT
	オオバコ科	カワヂシャ		•	•						NT	NT
合計	18科	21種	12種	10種	14種	6種	6種	0種	0種	5種	6種	19種

外来種									
7171								g 9	卜来種
No.	科名	和名	Н8	H13	H19	H24	R3	外来	生態系被害
_	1 = + 11 > 50	11112		_		_		生物法	防止リスト
1	トチカガミ科	オオカナダモ	•	•	•	•	•		重点
3	ユリ科	<u>コカナダモ</u> シンテッポウユリ	•		•	•	•		<u>重点</u> その他
4		ヒメヒオウギズイセン	•	:		•	•		その他
5	7 1 7 14	キショウブ	-	•	-	-	-		重点
	ツユクサ科	ノハカタカラクサ		ě	ě	•	•		重点
	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ			ě	•	•		重点
8	イネ科	コヌカグサ	•	•	•	•			産業管理
9		メリケンカルカヤ	•	•	•	•	•		その他
10		ハルガヤ	•		•		•		その他
11		カモガヤ	•	•	•				産業管理
12		シナダレスズメガヤ	•	•	•	•	•		重点
13		オオクサキビ	•	•	•	•	•		その他
14 15		<u>シマスズメノヒエ</u> キシュウスズメノヒエ	1	•			•		その他
16		オオアワガエリ		•	-	•	•		その他 産業管理
17		オニウシノケグサ	•	•	•	•	•	l	産業管理
18		ナギナタガヤ	-	•	-	_	-		産業管理
19	マメ科	イタチハギ	•	ě	ě	•	ě		重点
20		エニシダ			•				その他
21		ハリエンジュ		•			•		産業管理
	クワ科	ヤマグワ	•	•	•	•	•		重点
	バラ科	ビワ	•	•	•	•			産業管理
	ウリ科	アレチウリ	•	•	•		•	特定	緊急
	トウダイグサ科	ナンキンハゼ	<u> </u>	•	•	•	•		その他
	アカバナ科	コマツヨイグサ ニワウルシ	•	•	•	•	•		重点
	<u>二ガキ科</u> アオイ科	フヨウ	-	•	÷	•	•		<u>重点</u> その他
	アブラナ科	カラシナ		•	•	•	•		その他
30	7 7 7 7 144	オニハマダイコン		•		_			その他
31		オランダガラシ	•	•	•	•	•		重点
	タデ科	シャクチリソバ			ě	•	•		その他
33		ヒメツルソバ					•		その他
34		ヒメスイバ	•	•	•	•	•		その他
35		ナガバギシギシ	•	•	•		•		その他
36		ギシギシ	•	•	•	•	•		その他
37	1 -461	エゾノギシギシ	•	•		•	•		その他
	ナデシコ科	ムシトリナデシコ	•	_	•	•	•		その他
39	スベリヒユ科	マンテマ ヒメマツバボタン	•	•	•		•		その他 重点
	マタタビ科	キウイフルーツ			•		•		産業管理
	アカネ科	オオフタバムグラ				•			その他
	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ		•	•	•	•		重点
		アメリカネナシカズラ	•	•	•	•	•		その他
45		ホシアサガオ			ě		•		その他
46	モクセイ科	トウネズミモチ					•		重点
	オオバコ科	オオバコ	•	•	•	•	•	L	重点
48	1 (6)	オオカワヂシャ	<u> </u>	<u> </u>	•	•	•	特定	緊急
	キク科	オオブタクサ	<u> </u>	_	•	•		ļ	重点
50		アメリカセンダングサ	•	•	•	•	•	A±.	その他
51 52		オオキンケイギク ヒメジョオン	•	•	•	•	•	特定	緊急 その他
53		フランスギク		_	-		-		その他
54		オオハンゴンソウ	—	•	_		_	特定	緊急
55		セイタカアワダチソウ	•	ě	•	•	•	197	重点
56		オオアワダチソウ	•	•					重点
57		オオオナモミ	•	•	•	•	•		その他
合計	25科	57種	35種	41種	47種	37種	46種	4種	57種

注1) 分類体系

分類群は「河川水辺の国勢調査のための生物リ スト-令和2年度版-」に従った。

注2) 重要種の選定根拠

天然記念物:

「文化財保護法」(1950, 法律第214号)及び 条例により指定された種

種の保存法:

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に 関する法律」(1992, 法律第75号)の国内希少 野生動植物

県希少:

「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」 (2001,条例第51号)

環境省RL:

「環境省レッドリスト2020の公表について」 (環境省, 2020)

VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧 鳥取県RDB:

鳥取県RDB:レッドデータブックとっとり第3版 2022 (鳥取県, 令和5年) CR+EN: 絶滅危惧I類、VU: 絶滅危惧II類、

NT: 準絶滅危惧、DD:情報不足、OT: その他 の重要種

注3) 外来種の選定根拠

外来生物法:

「特定外来生物による生態系等に係わる被害の 防止に関する法律」(2010,環境省) 条件付特定:

特定外来生物に指定された生物のうち、飼育 などに関する規制の一部が当面の間、適用除 外とされている生物

生態系被害防止リスト:

「生態系被害防止外来種リスト」(2015,環境

緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、 その他:その他の総合対策外来種、産業管理: 産業管理外来種

(1)哺乳類、両生類、両生類

・河川水辺の国勢調査において確認された、哺乳類、爬虫類の、両生類の重要種は以下のとおり。

哺乳類:モモジロコウモリ

爬虫類:ニホンスッポン、シロマダラ

両生類はトノサマガエル、トノサマガエル、カジカガエル

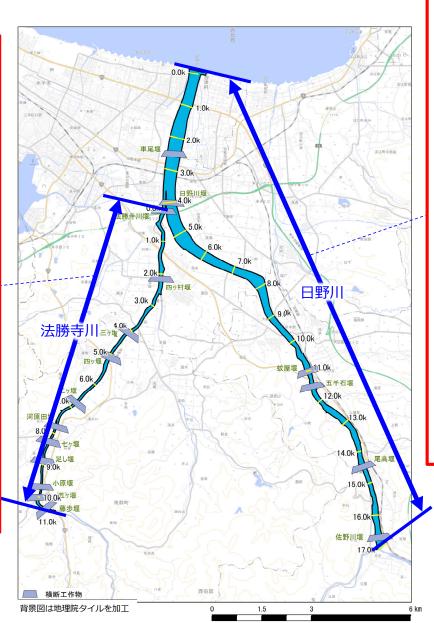


(2)鳥類

・河川水辺の国勢調査において確認された鳥類の重要種は以下のとおり。

鳥類:コハクチョウ、オシドリ、ミコアイサ、ササゴイ、イカルチドリ、コアジサシ、ミサゴ、ノスリ、ヤマセミ、ハヤブサ、コシアカツバメ、セッカ等、38種

重要種保護の観点より非公表



重要種保護の観点より非公表

備考1) 河川水辺の国勢調査における確認状況を示す。

2) 表中の数字は個体数を示す。

3) * 印は、個体数不明の記録を含む。 (個体数不明の記録は1個体として集計。)

4) ハッチ掛けが示す事項は以下のとおり。

■オレンジ色:増加種(最新2ヶ年以上で個体数が増加)

■水色:減少種(最新2ヶ年以上で個体数が減少)

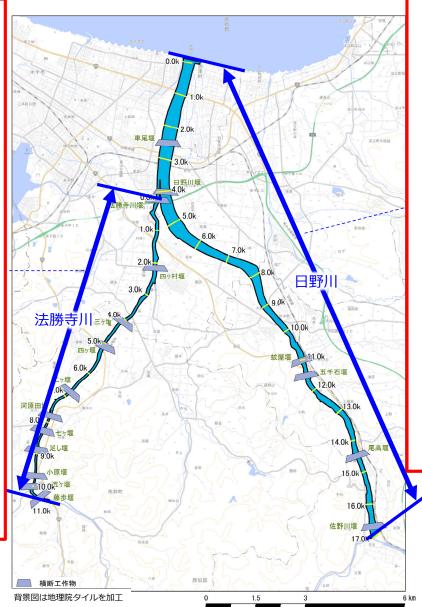
■紫色:消失種(最新2ヶ年以上で確認が無い)

(3) 陸上昆虫類

・河川水辺の国勢調査において確認された陸上昆虫類の重要種は以下のとおり。

陸上昆虫類:アオハダトンボ、シルビアシジミ、コガムシ、ジョウカイボン西日本亜種等、60種

重要種保護の観点より非公表



重要種保護の観点より非公表

- 備考1) 河川水辺の国勢調査における確認状況を示す。
 - 2) 表中の数字は個体数を示す。
 - 3) *印は、個体数不明の記録を含む。
 - (個体数不明の記録は1個体として集計。)
 - 4) 確認状況の詳細が不明であった、アキアカネ、オオコオイムシ、タイコウチ、オオチャパネセセリ、ウスパシロチョウ、ナカスジキヨトウ、ニセトックリゴミムシ、ナミハンショウ、エリザハンミョウ、ヤマトゴマフガムシ、ゴマフガムシ、ヒメガムシ、ヘイケボタル、キヌゲハキリパチの14種は整理対象外とした。
 - 5) ハッチ掛けが示す事項は以下のとおり。
 - ■オレンジ色:増加種(最新2ヶ年以上で個体数が増加)
 - ■水色:減少種(最新2ヶ年以上で個体数が減少)
 - ■紫色:消失種(最新2ヶ年以上で確認が無い)

(4)魚類

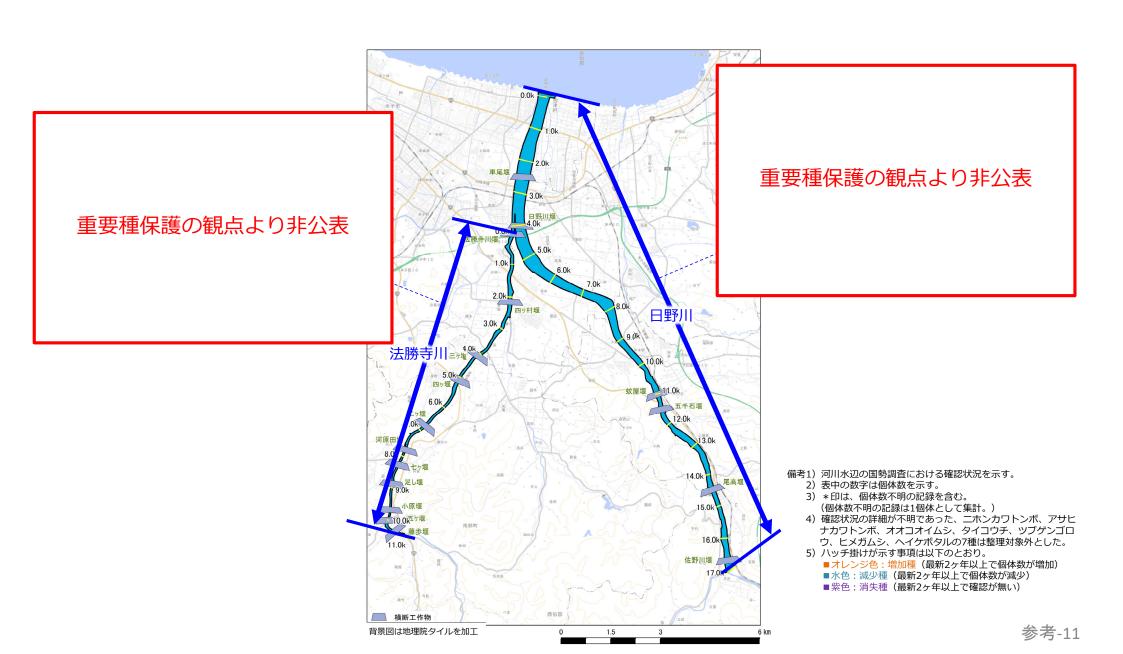
・河川水辺の国勢調査において確認された魚類の重要種は以下のとおり。

魚類:スナヤツメ南方種、二ホンウナギ、ミナミアカヒレタビラ、ドジョウ、サンインコガタスジシマドジョウ、アカザ、サクラマス、ミナミメダカ、カマキリ(アユカケ)等、16種



(5) 底生動物

・河川水辺の国勢調査において確認された底生動物の重要種は以下のとおり。 底生動物:イシマキガイ、モノアラガイ、カワコザラガイ、ヤマトシジミホンサナエ等、23種



(6)植物

・河川水辺の国勢調査において確認された植物の重要種は以下のとおり。

植物:ウマノスズクサ、エビモ、ナガミノツルケマン、ホザキノフサモ、イヌハギ、カワラハンノキ等、21種



(1)河川環境管理シートの概要

・河川環境管理シートとは、「河川環境管理シートを用いた環境評価の手引き~河川環境の定量評価と改善に向けて~(令和5年7月、国土交通省)」に沿って作成されるものである。

◆ 河川環境管理シートの説明

No.	項目			説明	
1	河川環境管理シート			泉に <u>河川水辺の国勢調査の河川環境基図作成調査等</u> から得られる地被情報を 経年変化を可視化 する資料であり、以下の3つのシートで構成される。	基に、簡易的かつ <u>定量的に河川環境を評価し、</u> そ
			シート名	作成の目的	
			河川環境区分シート	直轄区間全体の河川環境を概観し、「河川環境区分」に区分けする。	
			代表区間選定シート	河川環境区分ごとに、「代表区間」や「保全区間」を選定する。	
			河川環境経年変化シート	2時期の生息場データを用いて、 <u>河川環境の経年変化を把握</u> する。	
2		・河川を縦断方向にみて・評価や改善を行う際の	可川環境が類似した一連区間 の。 まとまり・単位となる。	こと。	
3	代表区間	・「生物場の多様性の評価	西(<u>典型性12項目</u>)」と「生物との関	見わりの強さの評価」の結果に基づき選定する、「河川環境区分」内で典型性の	観点から <u>河川環境が相対的に良好な区間</u> のこと。
4	保全区間	「河川環境区分」内で、	寺殊性の観点から重要な要素を含	きむ区間 のこと。	

「河川環境管理シートを用いた環境評価の手引き〜河川環境の定量評価と改善に向けて〜(令和5年7月、国土交通省)」より抜粋





(2) 代表区間・保全区間の選定結果

日野川

河川環境区分シート

- ・河川環境区分は、河川環境が類似し、相対的な順位付けが可 能な範囲で、河川管理上、効率的な数に区分する。
- ・河川環境区分の設定に際しては、「河川整備基本方針」、 「河川整備計画」の境界部と整合を図ることが重要である。

※距離標1:1~2km区間 伯吉大橋 JR日野川鉄橋 辛子士統 新日野橋 日野川君 略図 佐野川用木 野上川 五千石堰 横梁 拱新工作物 区分2 (州の発達した河道 区分3 (自然度の高い水際・左岸山付き) 区分1 河川環境区分 汽水·感潮域 河川区分 日野川下流地区 日野川中流地区 セグメント1 大セグメント区分 小セグメント区分 堤内地の景観 右岸側 農地及「7住宅 農地に住宅が点在 堤内地の景観 左岸側 山付きまたは農地

5 6 7 8 9

0 0 0 0 0

ΔΔΟΟΔ

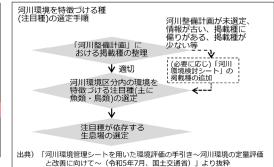
O O Δ O O × Δ × Δ

A 0 0 0 0

00000

0 0 0 0 0 0 0 0

4 5 3



代表区間選定シート

◆ 生息場の多様性の評価

(○×△) する。

区分毎に評価値を集計する。

	144 141	
		l

1. 低•中茎草地 「河川環境区分」ごとに各環境要素の中央 値を算出し、中央値を基準に区分毎に評価

	陸	2. 河辺性の樹林·河畔林	-	-	-
	域	3. 自然裸地	-	-	-
		4. 外来植物生育地	×	Δ	×
ш	水	5. 水生植物帯	-	-	-
典型	際	6. 水際の自然度	Δ	0	0
性	域	7. 水際の複雑さ	0	Δ	С
1	٦.	8. 連続する瀬と淵	-	-	-
	水域	9. ワンド・たまり	Δ	0	0
	*94	10. 湛水域	-	-	-
	汽	11. 干潟			
	水	12. ヨシ原	0	0	Δ
生息場	の多	・様性の評価値	2	3	3

区分1

0 1 2

0 0

距離標(空間単位:1km

		距離標(空間単位:1km)	3	4
		1. 低·中茎草地	0	
	陸	2. 河辺性の樹林・河畔林	0	0
	域	3. 自然裸地	Δ	Δ
		4. 外来植物生育地	Δ	×
	水	5. 水生植物帯	Δ	Δ
典型	際	6. 水際の自然度	0	Δ
性	域	7. 水際の複雑さ	0	0
'-		8. 連続する瀬と淵	0	
	水域	9. ワンド・たまり		0
	190	10. 湛水域		×
	汽	11. 干潟	-	-
	水	12. ヨシ原	-	-
生息場	の多	様性の評価値	5	1

陸域	1. 低・中茎草地 2. 河辺性の樹林・河畔林 3. 自然裸地 4. 外来植物生育地	0	0	O △	0	Δ	0	0
域	3. 自然裸地	_	_	Δ	Λ	\sim		
		0				U	Δ	0
	4. 从本植物生育地		Δ	0	0	Δ	Δ	0
	7. /r/A 1010/12 F 10	Δ	Δ	Х	×	Δ	Х	×
水し	5. 水生植物帯	0	Δ	Δ	0	0	0	Δ
際	6. 水際の自然度	0	Δ	Δ	0	0	0	0
域	7. 水際の複雑さ	0	Δ	0	Δ	0	Δ	0
	8. 連続する瀬と淵	Δ	0	0	0	0	0	0
	9. ワンド・たまり	Δ	Δ	Δ	0	0	0	0
*** [10. 湛水域		×			Δ		×
汽	11. 干潟	-	Е	-	-	-	-	-
nk [12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-
)多	様性の評価値	5	1	3	5	6	4	5
	或 水或 气水		 では、水原の複雑さ ○ お、水原の複雑さ ○ のは、水原の複雑さ ○ のは、水原の複雑さ ○ のは、水原の複雑さ ○ のは、水原の複雑さ ○ は、水原の複雑さ ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の複雑を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を ○ は、水原の変数を	 で 7. 水原の複雑さ ○ △ 水 8. 連続する瀬と淵 △ ○ ボ 9. ワンド・たまり △ △ 10. 濱水域 ※ 11. 濱湯 12. ヨシ原 	図	g 7. 水際の複雑さ ○ △ ○ △ ○ △ ★ 8. 連続する瀬と淵 △ ○ ○ ○ ○ ♥ 9. ワンド・たまり △ △ △ ○ □ 10. 湛水域 × ▼ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑	g 7. 水際の複雑さ ○ △ ○ △ ○ A ○ ★ 8. 連続する瀬と淵 △ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	g 7. 水際の複雑さ

区分3

<典型性12項目の評価方法> $(1)\sim(3),(5)\sim(7),(9),(11),(12)$

中央値より大:○(1点) 中央値より小:△(0点)

中央値より大:×(-1点) 中央値より小:△(0点)

12 13 14 15 16

- 15 - - -

- 0 - -Δ O O O O

1 0 0 0 0 ΔΟΟΟΔ 0 0 0 0 0

瀬・淵の両方が中央値より大:○(1点) 瀬・淵のどちらかが中央値より大:△(0点)

-: 評価対象外であることを示す

◆ 生物との関わりの強さの評価

「河川環境区分」ごとに注目種を選定する。 (選定手順は右上図参照)

区間毎に注目種が依存する環境要素(典型性 12項目)の多寡を「○」の数にて評価する。

		距離標(空間単位:1km)	0	1	2
種特	魚	シロウオ	0	0	0
すのづ	類	河口域	0	0	0
る個け生体る		コアジサシ	3	0	0
息数種	鳥	自然裸地	0	Δ	0
場とへ依注	類	ミコアイサ	2	0	1
存日		湛水域	Δ	Δ	0
生物と	の問	わりの強さの評価値	2	1	2

		距離標(空間単位:1km)	3	4	5	6	7	8	9
個特		アユ	-	-	-	22	-	-	-
体徴	魚	重続する瀬と淵			0	Δ	0	0	0
数づ	類	ミナミメダカ	-	-	-	0	-	-	-
とけ		ワンド・たまり		0	0	0	Δ	Δ	Δ
依る 存種		オオヨシキリ	4	1	4	1	0	4	2
サ作		水生植物帯	Δ	Δ	Δ	0	0	0	0
る注	鳥	イカルチドリ	0	1	2	0	1	0	4
生目	類	自然裸地	Δ	Δ	0	0	Δ	0	0
息種場の		コハクチョウ	0	55	0	0	0	0	0
700 07		低·中茎草地	0		0	0	Δ	Δ	Δ
生物と	の関	わりの強さの評価値	2	1	4	4	2	3	3

区分2

			距離標(空間単位:1km)	10	11
	種特		アユ	-	-
	- m	魚	連続する瀬と淵	Δ	0
	ュのづ		ミナミメダカ	-	-
	生体な		ワンド・たまり	Δ	Δ
	思奴靈		オオヨシキリ	1	0
	場と作	鳥	水生植物帯	0	Δ
	存品	類	イカルチドリ	1	0
	すっ		自然裸地	0	Δ
	生物との	関わ	りの強さの評価値	2	1

◆ 代表区間の選定

「生物場の多様性の評価」と「生物との関 わりの強さの評価」で集計した評価値に基 づき、両者ともに高い1km区間を抽出する。

現地確認の上、代表区間を最終選定する。

距離標(空間単位:1km)	0	1	2
河川環境区分	<u> </u>	≤分	1
生息場の多様性の評価値	2	3	3
生物との関わりの強さの評価値	2	1	3
代表区間候補の抽出	В		Α
代表区間の選定結果	*		

・2k区間は評価値が高いが、車尾堰より下流までが汽水域となっ ・Ok区間は評価値が低下しているが、区分1を代表する汽水環境

・Ok区間は視点場(皆生大橋)があり、水辺の国勢調査の調査地 点となっているため、モニタリングしやすい。

距離標(空間単位:1km)	3	4	5	6	7	8	9
河川環境区分				区分	2		
生息場の多様性の評価値	5	1	4	5	3	5	5
生物との関わりの強さの評価値	2	1	4	4	2	3	3
代表区間候補の抽出			В	Α		В	В
代表区間の選定結果				*			Г
【選定理由】							_
・区分2を代表する環境(自然裸地)が良好。							
·視点場(八幡橋)がある。							

10 11 12 13 14 15 16 河川環境区分 生息場の多様性の評価値 生物との関わりの強さの評価値 ВВ 代表区間候補の抽出 l E * 【選定理由】 ・区分3を代表する環境(自然裸地、連続する瀬と淵、ワンド・たまり等)が良好。 ・山付き区間となっている。 ・右岸堤防上から区間を見渡すことができる。

A:区分内で両者ともに1位 B:区分内で両者ともに2位以内

◆ 保全区間の選定

特殊性の観点等から、保全すべき特殊な場 として保全区間候補を抽出する。

現地確認の上、保全区間を最終選定する。

	距離標(空間単位:1km)	0	1	2
	礫河原の植生域	-	-	-
	湧水地	-	-	-
特理	海浜植生帯	0		
珠要	塩沼湿地			
性素	汽水域	0	0	0
	湛水域	-	-	-
	山付き区間	-	-	-
地形・	支川との合流	●水	貫川	
景観年	費生日吉津海岸	0		
	重要種保護の観点より非公	表		
歴史文化 ・利用	日吉津水辺の楽校		0	
保全区	間候補の抽出			•
保全	区間の選定結果	*		*
	重要種保護の観点より非公	表		

	距離標(空間単位:1km)	3	4	5	6	7	8	9
	礫河原の植生域	0		0	0			
	湧水地							
特理	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-
2 块 要	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-
性素	汽水域	-	-	-	-	-	-	-
	湛水域		0					
	山付き区間							П
地形・ 景観等	支川との合流	●法服	特別	●大川	1			
	重要種保護の	観点より非	公	ŧ				
歷史文 化·利用	アユの釣り場			0	0	0	0	C
保全区	間候補の抽出	•		•				
保全	区間の選定結果			\star				
	重要種保護の	組占上りま	=//\=	ŧ.				

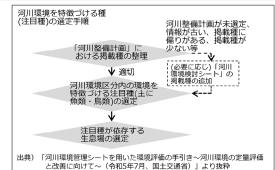
	距離標(空間単位:1km)	10	11	12	13	14	15	16
	礫河原の植生域							
	湧水地							
特理	海浜植生帯	-	-	-	-	-	-	-
77 块 灰	塩沼湿地	-	-	-	-			E
性素	汽水域	-	-	-	-	-	-	-
	湛水域		0			0		C
	山付き区間	0	0	0	0	0	0	
地形・ 景観等	支川との合流		●清	山川	●大	江川	野上	JII (
	重要種保護の観	点より	松	表				
歷史文 化·利用	アユの釣り場	0	0	0	0	0	0	С
	間候補の抽出		•	•	•			
保全区								

(2) 代表区間・保全区間の選定結果 法勝寺川

河川環境区分シート

- ・河川環境区分は、河川環境が類似し、相対的な順位付けが可 能な範囲で、河川管理上、効率的な数に区分する。
- ・河川環境区分の設定に際しては、「河川整備基本方針」、 「河川整備計画」の境界部と整合を図ることが重要である。





代表区間選定シート

◆ 生息場の多様性の評価

「河川環境 値を算出し $(\bigcirc \times \triangle)$

カレンシャボロンローに			年80米(王间丰厚.160)			-	U				
			1. 低•中茎草地		0	0	0	Δ	Δ	0	Δ
意区分 ごとに各環境要素の中央		陸	2. 河辺性の樹林・河畔林	0	Δ	0	Δ	Δ	Δ	0	0
見込力」ことに登場現安米の中大		域	3. 自然裸地	0	Δ	0			Δ		
」、中央値を基準に区分毎に評価			4. 外来植物生育地		×	Δ	Δ	×	×	×	Δ
	-	水	5. 水生植物帯	Δ	Δ	Δ	0	0	0	0	Δ
する。	典型	際	6. 水際の自然度	Δ	0	0	0	0	Δ	0	0
	性	域	7. 水際の複雑さ	0	0	0	Δ	Δ	Δ	Δ	0
	'-		8. 連続する瀬と淵	Δ			0		0	0	0
平価値を集計する。		水域	9. ワンド・たまり		0	0	Δ	0	Δ		Δ
十二世で大口 9 20。		120	10. 湛水域	×	×	Δ		×		Δ	Δ

区分毎に評

◆ 生物との関わりの強さの評価

「河川環境区分」ごとに注目種を選定する。 (選定手順は右上図参照)

区間毎に注目種が依存する環境要素(典型性 12項目)の多寡を「○」の数にて評価する。

「牛物場の多様性の評価」と「牛物との関

◆ 代表区間の選定

わりの強さの評価」で集計した評価値に基 づき、両者ともに高い1km区間を抽出する。

現地確認の上、代表区間を最終選定する。

◆ 保全区間の選定

特殊性の観点等から、保全すべき特殊な場 として保全区間候補を抽出する。

現地確認の上、保全区間を最終選定する。

		1. 低•中茎草地		0	0	0	Δ	Δ	0	Δ
	陸	2. 河辺性の樹林・河畔林	0	Δ	0	Δ	Δ	Δ	0	0
	域	3. 自然裸地	0	Δ	0			Δ		
		4. 外来植物生育地		×	Δ	Δ	×	×	Х	Δ
	水	5. 水生植物帯	Δ	Δ	Δ	0	0	0	0	Δ
典型	際	6. 水際の自然度	Δ	0	0	0	0	Δ	0	0
性	域	7. 水際の複雑さ	0	0	0	Δ	Δ	Δ	Δ	0
'-	zk.	8. 連続する瀬と淵	Δ			0		0	0	0
	域	9. ワンド・たまり		0	0	Δ	0	Δ		Δ
	***	10. 湛水域	×	×	Δ		×		Δ	Δ
	汽	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-
	水	12. ヨシ原								
生息場	の多	様性の評価値	2	2	6	4	1	1	4	4

区分1

0 1 2 3 4 5 6 7

		距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7
種特		ミナミアカヒレタビラ	-	-	-	0	-	-	-	-
一微为	魚	ワンド・たまり		0	0	Δ	0	Δ		Δ
ス捌づ	類	スナヤツメ類	-	-	-	2	-	-	-	-
生体で		連続する瀬と淵	Δ			0		0	0	0
思数釋		カワセミ	0	0	0	0	0	0	1	0
WH E	鳥	ワンド・たまり		0	0	Δ	0	Δ		Δ
存品	類	イカルチドリ	3	1	0	0	0	0	0	0
すり		自然裸地	0	Δ	0			Δ		
生物との関		わりの強さの評価値	1	2	3	1	2	1	1	1

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7
河川環境区分		_	-	区:	_	0		,
生息場の多様性の評価値	2	2	6	4	1	1	4	4
生物との関わりの強さの評価値	1	2	3	1	2	1	1	1
代表区間候補の抽出			Α					Г
代表区間の選定結果			*					
[漢定理由]								

・区分1を代表する環境(自然裸地、低・中茎草地、ワンド・たまり等)が良好。 ・視点場(新青木橋,第一青木橋)がある。 法勝寺川の特徴であるワンド・たまりの面積が最も広い区間である。

	距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7		
	礫河原の植生域										
	湧水地										
特理	海浜植生帯			-	-	-	-	-	-		
然 —	塩沼湿地	-	-	-	-	-	-	-	-		
性素	汽水域	-	-	-	-	-	-	-	-		
	山付き区間										
	湛水域	0	0	0		0		0	0		
ma.	桜並木								0		
把炒·	支川との合流			小	松谷	Ш			•		
							大谷	川、浦	:方川		
	重要種保護の観点より非公表										
	重要種保護の観点	より	非:	去公							
歴史文	重要種保護の観点	より	非	表 公表							
歴史文 化・利用	重要種保護の観点	より	非	表 公表							
化・利用	重要種保護の観点間候補の抽出	より 0	非:	表公		0					

区分2

		距離標(空間単位:1km)	8	9	10
		1. 低·中茎草地	0		
	陸	2. 河辺性の樹林・河畔林	0	Δ	0
	域	3. 自然裸地			0
		4. 外来植物生育地	×	Δ	×
	水	5. 水生植物帯	0	Δ	0
典型	際	6. 水際の自然度	0	0	0
性	域	7. 水際の複雑さ	0	Δ	0
'-	-1-	8. 連続する瀬と淵	Δ	0	0
	水域	9. ワンド・たまり	0	Δ	
	794	10. 湛水域		Δ	×
	汽	11. 干潟	-	-	-
	水	12. ヨシ原	ı	-	-
生息場	の多	様性の評価値	5	2	4

		距離標(空間単位:1km)	8	9	10
100 15		スナヤツメ類	1	-	-
すのづ	魚	連続する瀬と淵	Δ	0	0
る何け	類	ミナミメダカ	86	-	-
息数種		ワンド・たまり	0	Δ	
場とへ		カワセミ	0	0	0
存目		ワンド・たまり	0	Δ	
生物と	の関	わりの強さの評価値	2	1	1

距離標(空間単位:1km)	8	9	10
河川環境区分	[2	≅分	2
生息場の多様性の評価値	5	2	4
生物との関わりの強さの評価値	2	1	1
代表区間候補の抽出	Α		В
代表区間の選定結果	*		
【選定理由】			
・区分2を代表する環境(水生植物帯等)が良好。			
・視点場(大国橋、原橋)がある。			

<典型性12項目の評価方法>

 $(1)\sim(3),(5)\sim(7),(9),(11),(12)$ 中央値より大:○(1点) 中央値より小:△(0点)

中央値より大:×(-1点) 中央値より小:△(0点)

瀬・淵の両方が中央値より大:○(1点) 瀬・淵のどちらかが中央値より大:△(0点)

-:評価対象外であることを示す

A:区分内で両者ともに1位

B:区分内で両者ともに2位以内

	距離標(空間単位:1km)	8	9	10
	礫河原の植生域			
	湧水地			
特理	海浜植生帯	-	-	-
殊要	塩沼湿地	-	-	-
性素	汽水域	-	-	-
	山付き区間			0
	湛水域		0	0
	支川との合流		•	•
地形· 景観等		新宮	多川 東	長田
	 重要種保護の観点より非公	=		_
	主女性休暖の観点より非ム	4×		
_		+		
歴史文化・利用				
化・利用	 間候補の抽出			•
化·利用 保全区	 間候補の抽出 <mark>区間の選定結果</mark>			*

(3) 河川環境の経年変化の整理結果

日野川

河川環境経年変化シート

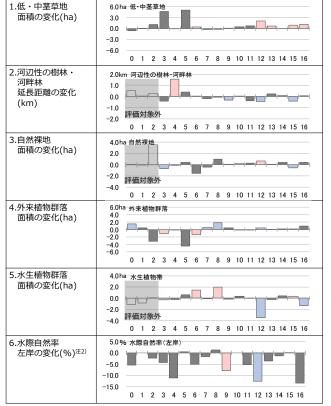
◆ 経年変化情報①:生息場の多様性の評価値の経年変化 (平成19年度(2007年度)→令和4年度(2022年度)

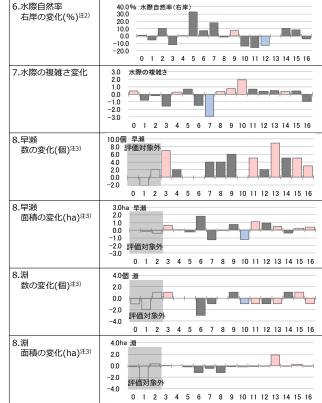
						-	_	-		$\overline{}$	$\overline{}$						$\overline{}$	$\overline{}$		
距離標(空	間単	位:1	km)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
2時期の評価の比較			1.低・中茎草地	00	-Δ	00	00	Δ-	00	ΔΟ	ΟΔ	ΔΔ	ΔΔ	ΔΔ	-Δ	ΔΟ	ΔΟ	ΔΔ	ΔΟ	-0
			2.河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	00	ΔΟ	ΔΔ	ΔΔ	00	00	ΟΔ	00	00	ΟΔ	-Δ	ΔΟ	ΟΔ	00
〇: 基準年の中央値以上		域	3.自然裸地	-	-	-	ΟΔ	ΔΔ	00	00	ΔΔ	00	ΔΟ	ΔΟ	ΔΔ	ΔΟ	00	ΔΔ	ΟΔ	00
Δ:基準年の中央値以下			4.外来植物	Δ×	ΔΔ	××	×Δ	××	××	×Δ	Δ×	Δ×	ΔΔ	ΔΔ	ΔΔ	Δ×	××	-Δ	Δ×	××
×:基準年の中央値以上	١	ж	5.水生植物帯	-	-	-	ΟΔ	ΔΔ	ΔΔ	ΔΟ	00	ΔΟ	00	00	ΔΔ	ΟΔ	00	00	ΔΟ	ΟΔ
(典型性4、10のみ)	典型	際	6.水際の自然度	ΔΔ	00	00	00	ΔΔ	00	00	00	00	ΔΟ	00	ΔΔ	ΟΔ	00	00	00	00
-:なし(数値が0)	性	域	7.水際の複雑さ	ΔΟ	ΔΔ	00	00	ΔΟ	ΔΔ	ΔΔ	ΟΔ	ΔΟ	ΔΟ	ΔΟ	ΔΔ	00	ΔΔ	ΔΟ	ΔΔ	00
■: 改善傾向 ■: 悪化傾向		Τ.	8.連続する瀬淵	-	-	-	-0		00	ΔΔ	00	00	00	ΟΔ	ΔΟ	00	ΔΟ	00	ΔΟ	ΔΟ
:評価対象外		水域	9.ワンド・たまり	ΟΔ	-0	00	0-	00	00	-0	-Δ	-Δ	-△	-Δ	ΔΔ	ΔΔ	-0	ΔΟ	-0	-0
			10.湛水域	-	-	-		Δ×							-×			-Δ		Δ×
		汽	11.干潟	0-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		水	12.ヨシ原	00	ΔΟ	ΟΔ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
***********			H19	4	1	4	6	0	4	1	6	4	3	4	1	5	2	3	3	4
生息場の多様性の 評価値の比較			R4(現況、基準年)	2	3	3	5	1	4	5	3	5	5	5	1	3	5	6	4	5
計画値の比較			評価値の差(H19-R4)	-2	2	-1	-1	1	0	4	-3	1	2	1	0	-2	3	3	1	1
										改善	悪化						改善	改善		

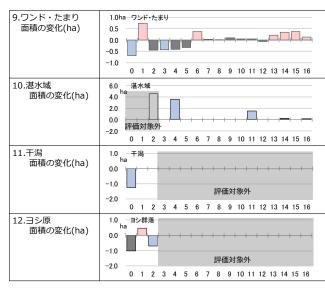
- ・代表区間選定シートの生息場の多様性の評価の2時期の評価値を比較
- ・マスに2つ並んでいる記号(○△×)の左側はH19、右側はR4の評価を示す。
 - ○(評価項目4,10以外): 各区分のR4の中央値より大きい場合(+1点)
 - △ (評価項目1~12): 各区分のR4の中央値より小さい場合(0点)
 - × (評価項目4,10): 各区分のR4の中央値より大きい場合(-1点)
 - -:値がゼロ-:評価対象外
- ○ 回復傾向 △ 悪化傾向
 ○ 回復傾向 - 悪化傾向
 × △ 回復傾向 △ × 悪化傾向
 × 回復傾向 × 悪化で維持
 ○ 良好で維持 × × 悪化で維持

評価値の変化が大きい(±3以上)の区間について、次頁以降で分析

◆ 経年変化情報②:生息場の変化量(平成19年度(2007年度)→令和4年度(2022年度))







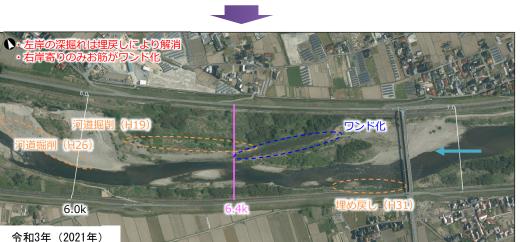
- 注1)棒グラフの色について、上記の経年変化情報①の評価値の経年変化の 結果より、以下のとおり設定
 - ■:改善傾向 ■:悪化傾向 ■:評価に変化なし □:評価対象外
- 注2) 水際自然度は左右岸それぞれで集計し、自然度の高い方を採用する。
- 注3) 早瀬と淵それぞれの「数」と「面積」を集計し、どちらかが相対的に 高い場合に「○」とし、早瀬と淵の両方の評価が「○」の場合に「連 続する瀬と淵」の評価を「○」とする。

日野川 (3)河川環境の経年変化の整理結果

- ■評価値の変化が大きい区間の分析(日野川6k区間)
- ・みお筋が動き、右岸側のみお筋はワンド化した。 ⇒河道掘削、深ぼれ部の埋戻し、出水等により、ワンドが形成されたことや、砂州上の植生が攪乱を受けて外来植物が減少、水生植物帯等が増加したため、環管シートの評価が上昇した と考えられる。

◆ 空中写真の経年変化



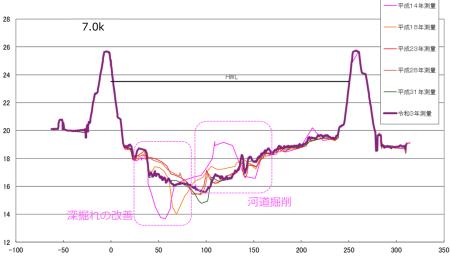


※写真出典: 平成18年: 地図・空中写真閲覧サービス (国土地理院) 令和3年: 「日野川水系航空レーザ測量業務」成果

◆ 河川環境管理シート(環管シート)における評価結果

評価項目	評価値の変化 (H19→R4)	変化量 (H19→R4)	単位
1.低•中茎草地面積	↑	+0.4	面積(ha)
2.河辺性の樹林・河畔林	→	0.0	延長(km)
3.自然裸地	→	-1.5	面積(ha)
4.外来植物	↑	-1.4	面積(ha)
5.水生植物帯	↑	+1.4	面積(ha)
6.水際の自然度	→	左岸 -5.0 右岸 +7.4	%
7.水際の複雑さ	→	-1.5	水際延長/流心延長
8.連続する瀬淵	→	早瀬 +1.8 淵 -1.2	面積(ha)
9.ワンド・たまり	↑	+0.4	面積(ha)
10.湛水域	→	0.0	面積(ha)

◆ 横断の経年変化(6.4k)

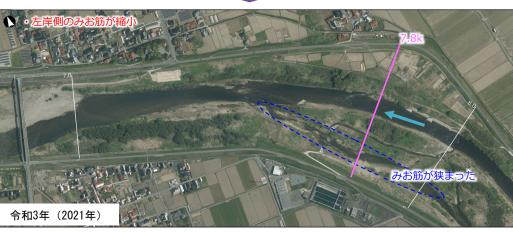


(3) 河川環境の経年変化の整理結果 日野川

- ■評価値の変化が大きい区間の分析(日野川7k区間)
- ・砂州に土砂が堆積に比高差が拡大し、左岸側のみお筋も縮小した。
- ⇒二極化が進行したことで、砂州上の植生が攪乱を受けにくくなり外来植物が増加したことや、みお筋が狭まり水際の複雑さが低下したことで、環管シートの評価が低下したと考えらえる。

◆ 空中写真の経年変化

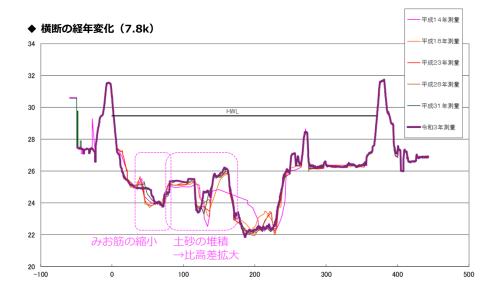




※写真出典: 平成18年:地図・空中写真閲覧サービス(国土地理院) 令和3年:「日野川水系航空レーザ測量業務」成果

◆ 河川環境管理シート(環管シート)における評価結果

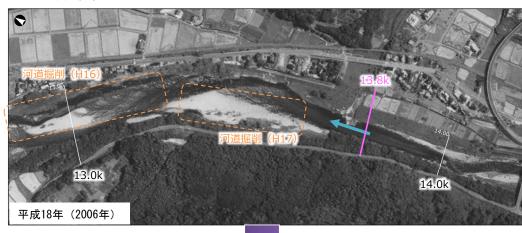
評価項目	評価値の変化 (H19→R4)	変化量 (H19→R4)	単位
1.低•中茎草地面積	V	-0.3	面積(ha)
2.河辺性の樹林・河畔林	→	-0.2	延長(km)
3.自然裸地	→	-0.4	面積(ha)
4.外来植物	\	+0.5	面積(ha)
5.水生植物帯	→	-0.1	面積(ha)
6.水際の自然度	→	左岸 -1.6 右岸 18.0	%
7.水際の複雑さ	V	-2.9	水際延長/流心延長
8.連続する瀬淵	→	早瀬 -1.2 淵 -0.5	面積(ha)
9.ワンド・たまり	→	0.0	面積(ha)
10.湛水域	→	0.0	面積(ha)



(3) 河川環境の経年変化の整理結果 日野川

- ■評価値の変化が大きい区間の分析(日野川13k区間)
- ・自然裸地が広がり、右岸の水制工の周囲等に小さなワンドが複数出現した。
- ⇒河道掘削、出水等により、水制工周辺にワンドが形成されたことや、砂州上の植生が攪乱を受けて低・中茎草地が増加したため、環管シートの評価が上昇したと考えらえる。
 - 一方で、連続する瀬・淵については、評価は上昇したが、実際の変化は小さいと考えられる。

◆ 空中写真の経年変化



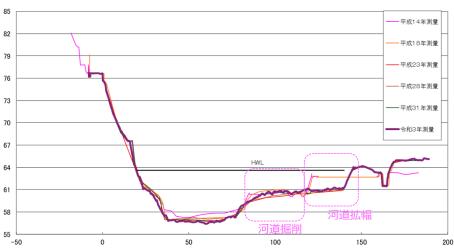


※写真出典: 平成18年:地図・空中写真閲覧サービス(国土地理院) 令和3年:「日野川水系航空レーザ測量業務」成果

◆ 河川環境管理シート(環管シート)における評価結果

* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	(200	,	Im desid
評価項目	評価値の変化 (H19→R4)	変化量 (H19→R4)	単位
1.低•中茎草地面積	↑	+0.7	面積(ha)
2.河辺性の樹林・河畔林	→	+0.2	延長(km)
3.自然裸地	→	0.0	面積(ha)
4.外来植物	→	0.0	面積(ha)
5.水生植物帯	→	-0.2	面積(ha)
6.水際の自然度	→	左岸 -3.5 右岸 0.0	%
7.水際の複雑さ	→	+0.5	水際延長/流心延長
8.連続する瀬淵	↑	早瀬 +0.5 淵 +1.8	面積(ha)
9.ワンド・たまり	↑	+0.2	面積(ha)
10.湛水域	→	0.0	面積(ha)
10. 温水項	→	0.0	面槓(ha)

◆ 横断の経年変化(13.8k)



(3) 河川環境の経年変化の整理結果 日野川

- ■評価値の変化が大きい区間の分析(日野川14k区間)
- ・平成18年から令和3年にかけて、尾高堰の上流側では、二又に分かれていたみお筋の片方(左岸側)が狭まり、令和4年度にはワンド化している。
- ⇒みお筋の片方がワンド化した結果、水際の複雑さやワンド・たまりが増加し、環管シートの評価が上昇したと考えられる。
 - 一方で、河辺性の樹林・河畔林は、評価は上昇したが、実際の変化は小さいと考えられる。

◆ 空中写真の経年変化



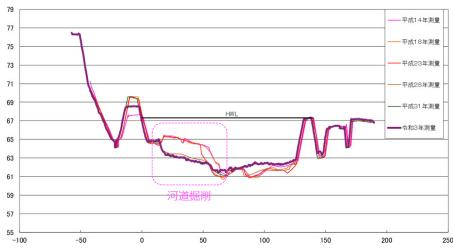


※写真出典: 平成18年:地図・空中写真閲覧サービス(国土地理院) 令和3年:「日野川水系航空レーザ測量業務」成果

◆ 河川環境管理シート(環管シート)における評価結果

▼ /5/11%のロセン	(%67 1)	(C034) @BI	四小口 不
評価項目	評価値の変化 (H19→R4)	変化量 (H19→R4)	単位
1.低•中茎草地面積	→	-0.1	面積(ha)
2.河辺性の樹林・河畔林	↑	+0.1	延長(km)
3.自然裸地	→	+0.4	面積(ha)
4.外来植物	→	+0.2	面積(ha)
5.水生植物帯	→	+0.4	面積(ha)
6.水際の自然度	→	左岸 -1.3 右岸 +10.0	%
7.水際の複雑さ	↑	+0.4	水際延長/流心延長
8.連続する瀬淵	→	早瀬 -0.4 淵 0.0	面積(ha)
9.ワンド・たまり	↑	+0.3	面積(ha)
10.湛水域	→	+0.2	面積(ha)

◆ 横断の経年変化(14.4k)



(3) 河川環境の経年変化の整理結果

法勝寺川

河川環境経年変化シート

◆ 経年変化情報①:生息場の多様性の評価値の経年変化 (平成19年度(2007年度)→令和4年度(2022年度))

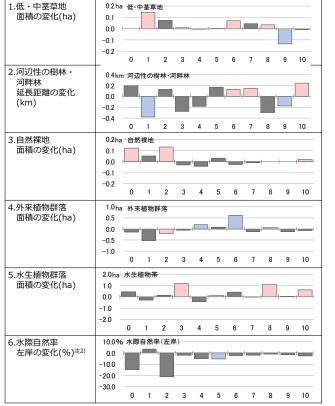


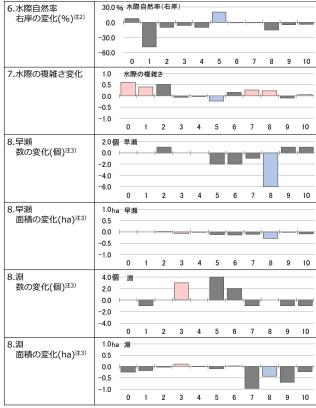
- ・代表区間選定シートの生息場の多様性の評価の2時期の評価値を比較
- ・マスに2つ並んでいる記号(\bigcirc \triangle imes)の左側はH19、右側はR4の評価を示す。
 - ○(評価項目4,10以外): 各区分のR4の中央値より大きい場合(+1点)
 - \triangle (評価項目 $1\sim12$): 各区分のR4の中央値より小さい場合(0点)
 - × (評価項目4,10): 各区分のR4の中央値より大きい場合(-1点)
 - : 値がゼロ
 - -:評価対象外

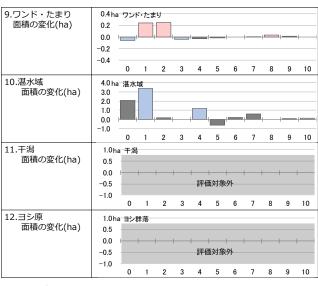


評価値の変化が大きい(±3以上)の区間について、次頁以降で分析

◆ 経年変化情報②:生息場の変化量(平成19年度(2007年度)→令和4年度(2022年度))







- 注1) 棒グラフの色について、上記の経年変化情報①の評価値の経年変化の 結果より、以下のとおり設定
 - ■:改善傾向 ■:悪化傾向 ■:評価に変化なし □:評価対象外
- 注2) 水際自然度は左右岸それぞれで集計し、自然度の高い方を採用する。
- 注3) 早瀬と淵それぞれの「数」と「面積」を集計し、どちらかが相対的に 高い場合に「○」とし、早瀬と淵の両方の評価が「○」の場合に「連 続する瀬と淵」の評価を「○」とする。

(3) 河川環境の経年変化の整理結果 法勝寺川

- ■評価値の変化が大きい区間の分析(法勝寺川2k区間)
- ・支川処理対策(背割堤整備、四ヶ村堰可動化、河道掘削)が実施され、河道掘削箇所の一部がワンド化した。
- ⇒額縁掘削を実施した箇所がワンド化した結果、ワンド・たまりが増加して環管シートの評価が上昇したと考えられる。
 - 一方で、自然裸地、外来植物は、評価は上昇したが、実際の変化は小さいと考えられる。

◆ 空中写真の経年変化



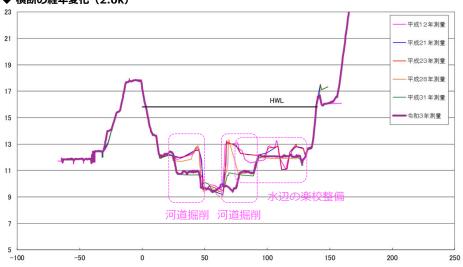


※写真出典: 平成18年: 地図・空中写真閲覧サービス (国土地理院) 令和3年: 「日野川水系航空レーザ測量業務」成果

◆ 河川環境管理シート(環管シート)における評価結果

* /3/11/00/2010/E2 1	(%)	100017 00 011	milimes 1.4
評価項目	評価値の変化 (H19→R4)	変化量 (H19→R4)	単位
1.低•中茎草地面積	→	+0.1	面積(ha)
2.河辺性の樹林・河畔林	→	+0.1	延長(km)
3.自然裸地	↑	+0.1	面積(ha)
4.外来植物	↑	-0.2	面積(ha)
5.水生植物帯	→	+0.1	面積(ha)
6.水際の自然度	→	左岸 -22.0 右岸 -10.1	%
7.水際の複雑さ	→	+0.5	水際延長/流心延長
8.連続する瀬淵	→	早瀬 0.0 淵 0.0	面積(ha)
9.ワンド・たまり	↑	+0.2	面積(ha)
10.湛水域	→	+0.2	面積(ha)

◆ 横断の経年変化(2.0k)



(3) 河川環境の経年変化の整理結果 法勝寺川

- ■評価値の変化が大きい区間の分析(法勝寺川10k区間)
- ・河道掘削が実施され、低水路幅が広がった。
- ⇒低水路幅が広がったが、環管シート上、評価上昇がみられた各項目の変化量は小さく、河川環境の変化は小さいと考えられる。

◆ 空中写真の経年変化

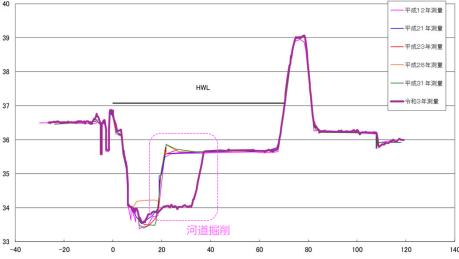


◆ 河川環境管理シート(環管シート)における評価結果

評価項目	評価値の変化 (H19→R4)	変化量 (H19→R4)	単位
1.低·中茎草地面積	→	0.0	面積(ha)
2.河辺性の樹林・河畔林	↑	+0.2	延長(km)
3.自然裸地	↑	0.0	面積(ha)
4.外来植物	→	-0.1	面積(ha)
5.水生植物帯	↑	0.0	面積(ha)
6.水際の自然度	→	左岸 -2.7 右岸 -4.0	%
7.水際の複雑さ	↑	+0.1	水際延長/流心延長
8.連続する瀬淵	→	早瀬 -0.1 淵 -0.2	面積(ha)
9.ワンド・たまり	→	0.0	面積(ha)
10.湛水域	V	+0.1	面積(ha)

10.0k 令和3年(2021年)

◆ 横断の経年変化(10.2k)



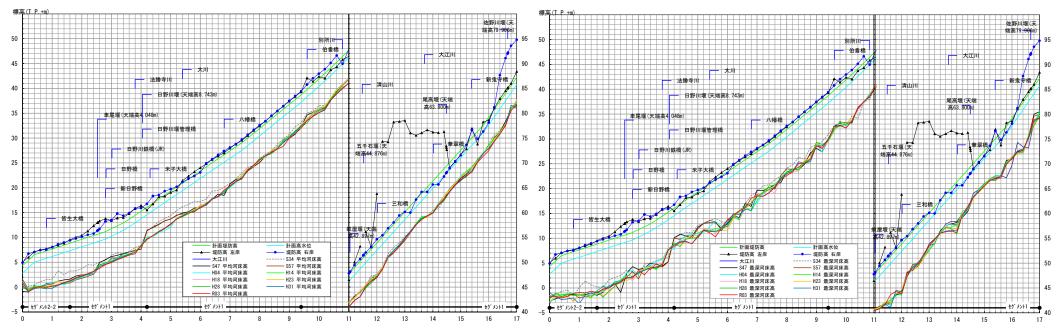
※写真出典: 平成18年: 地図・空中写真閲覧サービス (国土地理院) 令和3年:「日野川水系航空レーザ測量業務」成果

参考資料4 測量縦断の経年変化

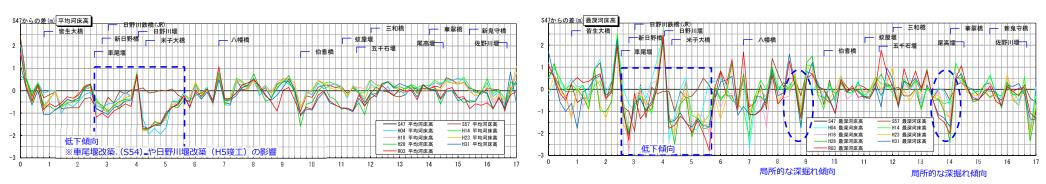
(1)日野川

【日野川下流地区(河口~2.6k付近)】概ね安定しているが、0kは、河口砂州の消長による河床高の変化が大きい。 【日野川中流地区(2.6k付近~17.0k付近】2.6k~5.6kは、堰改築やそれに伴う河道掘削による河床低下がみられる。 それ以外は概ね安定しているが、水衝部などで局所的な深掘れ傾向がみられる。

◆ 縦断形状の変遷(左:平均河床高、右:最深河床高)



◆昭和48年からの縦断形状の変化量(左:平均河床高、右:最深河床高)

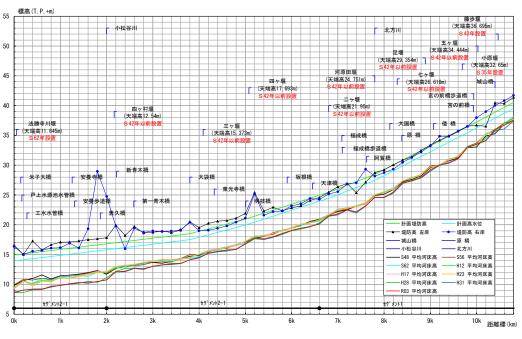


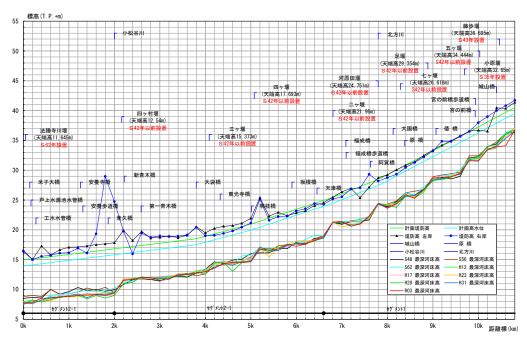
参考資料4 測量縦断の経年変化

(2)法勝寺川

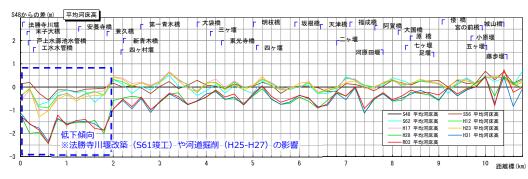
- ・0-2kは、法勝寺堰改築や河道掘削による河床低下がみられる。
- ・2k-10.9kは概ね安定しているが、堰直下などで局所的な深掘れ傾向がみられる。

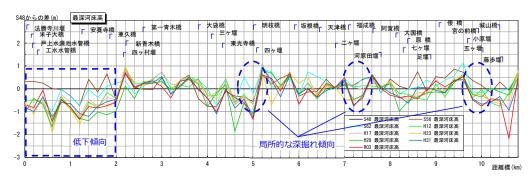
◆ 縦断形状の変遷(左:平均河床高、右:最深河床高)





◆昭和48年からの縦断形状の変化量(左:平均河床高、右:最深河床高)





参考資料5 魚類の遡上環境の劣化への対応状況(詳細)

- ・車尾堰は、平成20年度に、既設魚道の改良や新たな魚道整備を実施した。(国が実施)
- ・蚊屋堰、五千石堰、尾高堰、佐野川堰は、平成24年度から令和4年度にかけて、既設魚道の改良や新たな魚道整備を実施した。(鳥取県が実施)
- ・四ヶ村堰は、小松谷川の支川処理対策(~令和元年度)において、小松谷川側の堰を可動化し、魚道を整備した。(国が実施)



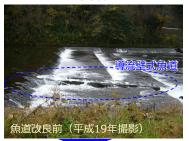
車尾堰 五千石堰

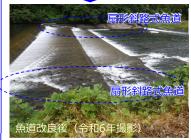
蚊屋堰

斜路式魚道に改良

※整備前後とも写真なし

堰左岸の階段式魚道を、粗石つき扇形

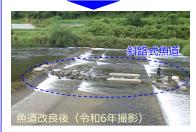




堰中央の導流壁式魚道を廃止し、堰両 岸に粗石つき扇形斜路式魚道を整備

尾高堰

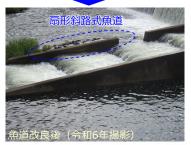




堰中央の導流壁式魚道を廃止し、堰中 央に粗石つき斜路式魚道を整備

佐野川堰



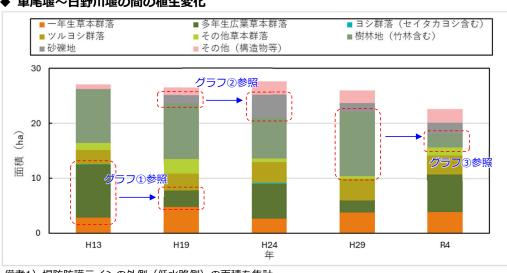


堰中央の階段式魚道の一部を切り欠き、 粗石つき斜路式魚道を整備

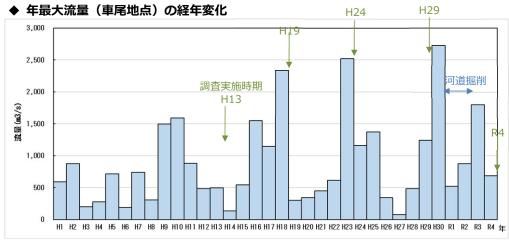
参考資料6 植生の経年変化(車尾堰~日野川堰)

- ・ 「緩やかな勾配の水際環境の創出」の整備内容検討にあたり、車尾堰~日野川堰の間の植生変化を整理した。
- ・H19~H24の植牛変化から、出水により「一年牛草本群落」が撹乱されて「砂礫地」が創出される一方で、他の植物群落は砂礫地になりにくいことが分かった。
- ・H29~R4の植生変化から、戦後2番目の出水規模であったH30出水とH30~R2の河道掘削・樹木伐採でも砂礫地やツルヨシ群落の創出は限定的であることが分かった。

◆ 車尾堰~日野川堰の間の植生変化



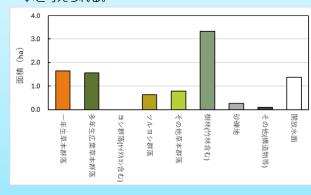
備考1) 堤防防護ラインの外側(低水路側)の面積を集計。



備考) 戦後最大の出水はS20の3,200m3/s。

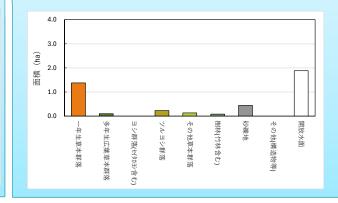
グラフ①:「多年生広葉草本群落」が減少

- ・H13に「多年生広葉草本群落」だった範囲が、H19にどのような植生に変化したかを整理した結果、主に「一年生草本群落」「樹林地」に変化していた。
- ・「樹林地」への変化は植生遷移、「一年生草本群落」への 変化はH18の出水(2,333m³/s)による撹乱の影響が大き いと考えられる。



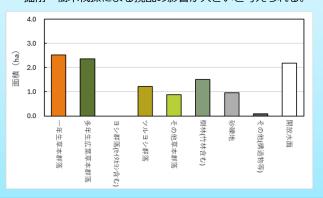
グラフ②:「砂礫地」が増加

- ・H24に「砂礫地」となった範囲が、H19はどのような植生だったのかを整理した結果、主に「一年生草本群落」であった。
- H23の出水(2,517m³/s)による撹乱の影響が大きいと考えられる。



グラフ③:「樹林地」が減少

- ・H29に「樹林地」だった範囲が、R4にどのような植生に変化したかを整理した結果、主に「一年生草本群落」「多年生広葉草本群落」に変化していた。
- ・「一年生草本群落」や「多年生広葉草本群落」への変化は、 H30の出水(2,724m³/s) 及びH30~R2に実施した河道 掘削・樹木伐採による撹乱の影響が大きいと考えられる。



参考資料7 河床が泥・砂泥で緩水環境を好む多様な動植物が生息する 環境の創出の整備候補箇所の選定

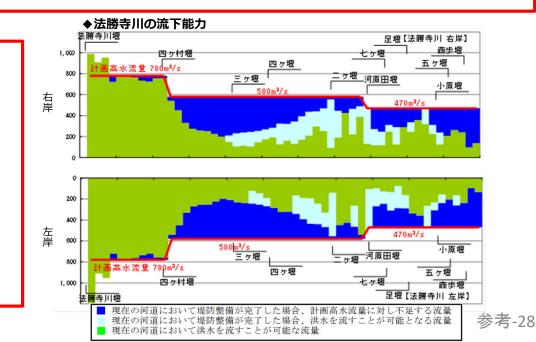
・法勝寺川は全体的に流下能力が不足していることから、河積を変えない、あるいは河積を大きくする整備を基本とする。そのような整備が可能と考えられる箇所は以下のとおり。

重要種保護の観点より非公表

重要種保護の観点より非公表

備考)整備した環境の維持可能性等も考慮して、整備箇所・形状を検討する。

重要種保護の観点より非公表



備考)整備した環境の維持可能性等も考慮して、整備箇所・形状を検討する。